

¥1800

風俗奇譚

第9集
2月号

目で見える風俗絵巻・内外古今の貴重文献満載

[illegible]

報風谷奇譚

第 2

特別企画 対ドジャース必勝法
爆笑漫画 4段式ロケット野郎
長編漫画 ビバリ族のブルース

やなせ
たかし



人の口ぐせと心理学
三村有弘



肌もあらわに



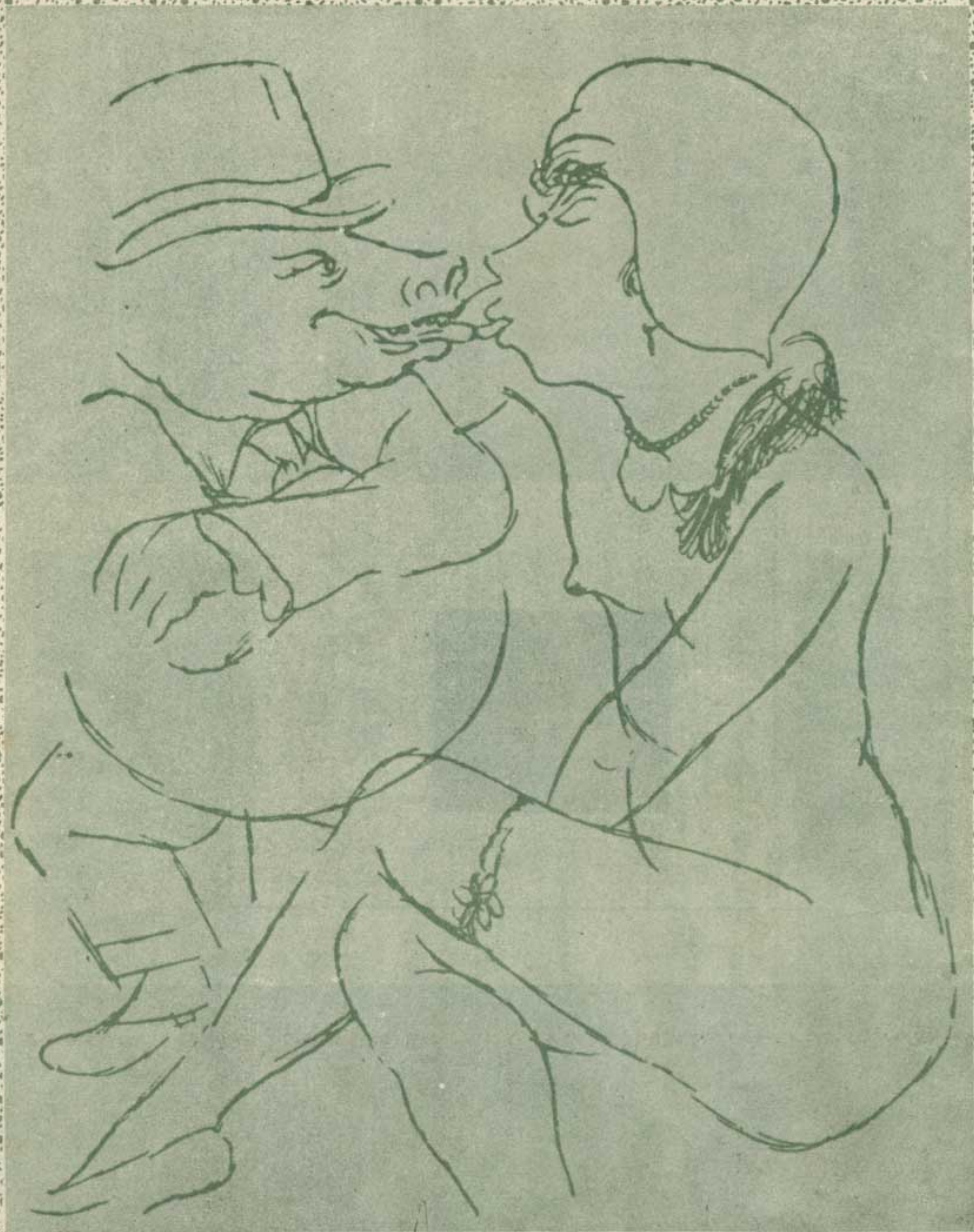
長じゅばん一枚、姿でしばられて 肌をむかれて乳房もあらわ 肌の白さとじゅばんの緋が映えて 妖美の人〈モデル・西牧えり子〉

A photograph of a woman with long dark hair, wearing a dark blue sailor-style uniform with white stripes on the collar and cuffs. She is sitting on a wooden chair, and her arms and torso are bound with thick, light-colored rope. Her legs are spread apart, and she is barefoot. The background consists of a dark wooden wall and a patterned rug. The text is written vertically on the right side of the image.

ガランとしたあき部屋に　ただひとり椅子に縛られた
制服の乙女　むき出しの足が　制服の紺に映えて美しい

制服無殘





新しい人間の階級（ブタと女の交戦）

ゲオルグ・グレンツマン

（表紙）ボタン止めの長靴をはく女……………	ルドルフ・シュリヒテル	（三）
肌もあらわに……………		（三）
制服無残……………		（四）
裸姿の緊縛……………		（六）

豪華グラビア・ページ

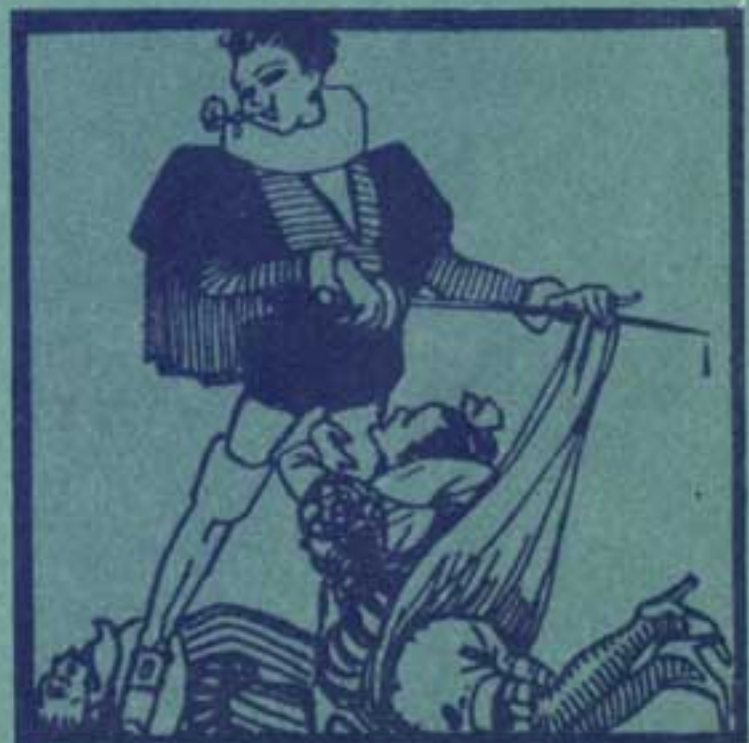
女性刑罰史 絵巻

海老責め無残・かきなわ・とりしめ・四寸なわ・れんじやく縄・きりなわ・まいなわ・草行真のむねはり・棒責め

なまめかしき縛女……………	（二一）
全裸のいけにえ……………	（二二）
板敷きの責め場……………	（二四）
石と落ち葉と女……………	（二六）
可憐な制服乙女……………	（二八）
ぐるぐる巻きの裸女……………	（三〇）
浣腸される女……………	（三二）
黒腸の責め苦……………	（三四）
長々と縛られて……………	（三六）
椅子の悶姿……………	（三八）
ゴムひもが飛び……………	（四〇）
鼻責めの表情……………	（四二）
禪姿うしろ手しばり……………	（四四）
全裸のポーズ……………	（四六）

（モデル）

西牧えり子	（二一）
西条さくら	（二二）
風早由美子	（二四）
さつきみち	（二六）
村上ユキ	（二八）
高月まゆみ	（三〇）
別府昭彦	（三二）



女体責め 悦虐画集

ガラスの幻想……………	田上恵子（四三）
水責め苦悶図……………	江馬美久（四四）
湯気赤熱責め……………	小田利美（四八）

女を責める 5 態

（絵物語）山小屋のいけにえ……………	多磨恵子・田上恵子（八三）
（絵物語）皮ハギ小屋……………	江馬美久・島久（八八）
（絵物語）深夜の危険なショー……………	小田利美・中沢道太郎（九四）

☆読者の広場……………（一〇四）
☆代理部だより……………（一二二）

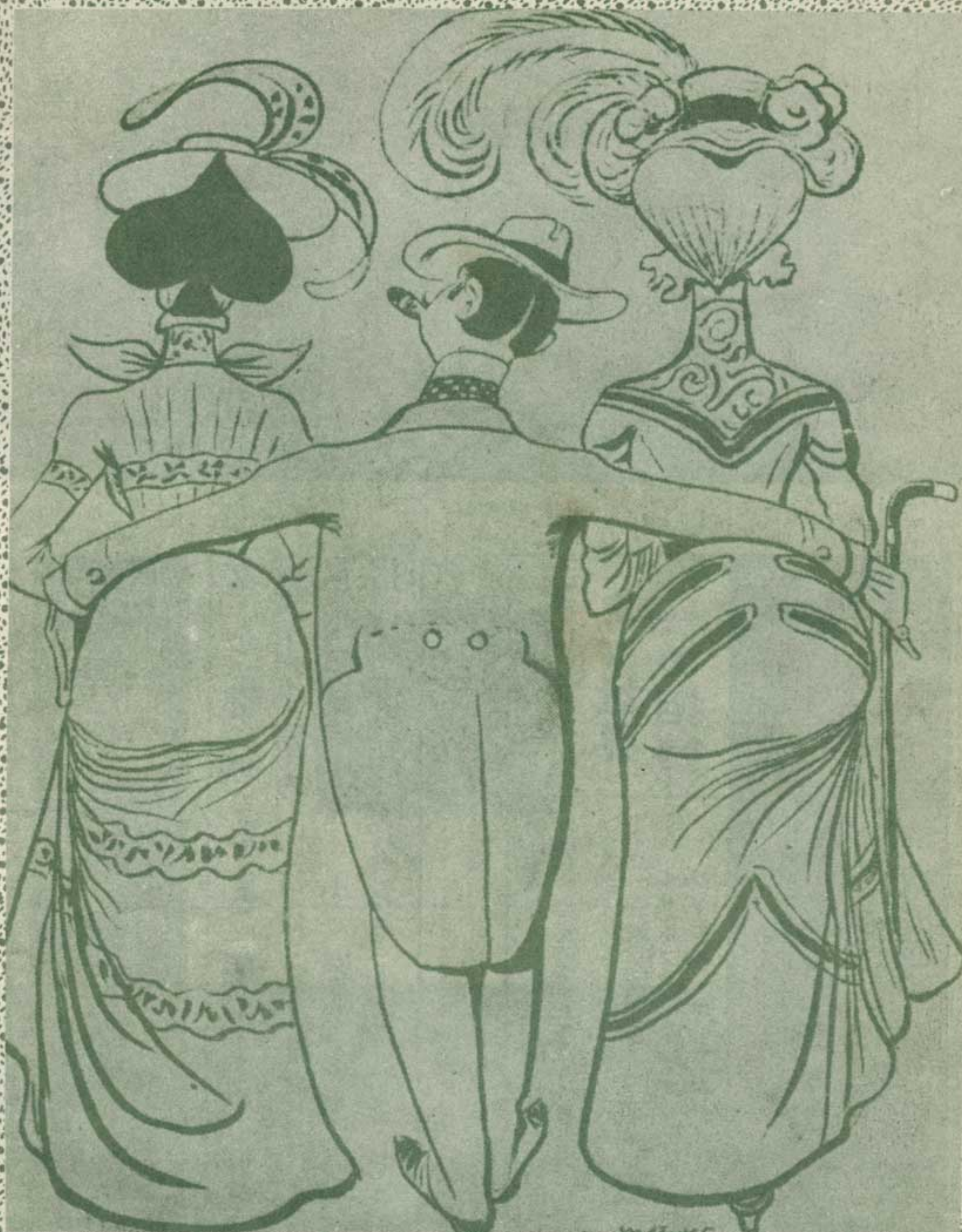
アブチツク くな世界への招待

お仕置きはこれから・男性願望の女・女装する男・女装願望マゾヒストの自殺・ネクタイルをのぞく・ビデに憑かれた男・ウオアイヨール・人獣交歓・ネクロフィリア・そのほか
ルドルフ・ヘーゲマン オットー・シヨフ
シャルル・マリリエ G・シミット その他

異常な 性風俗 展覧会

女装の男に恋する同性愛女性・女子同性愛クラブ・女形ホモに驚く判事・同性愛者は烙印刑・音楽が鳴りつづけ・アリストテレスはフイリスの馬に・ユダヤ人のさかさぶり刑・長靴フェチシズム・髪フェチシズム・魔女処刑
ヒルシュフェルト性科学博物館所蔵品





燃る（女ふたりで男をなぐる）

川・モセス画

なまめかしき縛女

全裸の白肌を縛られて 身をくねらせるとき 妖しい色気がこぼれ
不思議な美しさがただよう 女体の奇妙さへモデル・西牧えり子へ





全裸のいけにえ

ハダカにむかれるだけでも 女にとっ
ては恥ずかしいことなのに そのうえ
うしろ手に縛りあげて いたぶろうと
いう この残酷な責めにも 女のから
だは まぶしく光り輝くから不思議だ





板敷きの責め場

板敷の 吹きさらしの この小屋には 冷たい空気が
はりつめて じかち縛られてへモデル・西条きくらへ



石と落ち葉と女

石を積み重ねた段々に落ち葉が散りしき 雨あがりの土が
しつとりと黒い 縛られた裸の女へモデル・風早由美子





可憐な制服乙女

紺のセーラー姿も痛々しく縛られた乙女よ おまえに どんな罪がある
というのか 投げだされた姿態の 白ユリに似た清楚なポーズ







ぐるぐる巻きの裸女



肩から乳房 両腕 胸 両腿と 平打ちのヒモがまといつき しかもか
らだの中央を走って股しぱり 舞台上に置かれて ころがされて 無残!



浣腸される女

ガラス管の浣腸器が 彼女の恥ずかしい局部を襲う 苦痛の高潮！

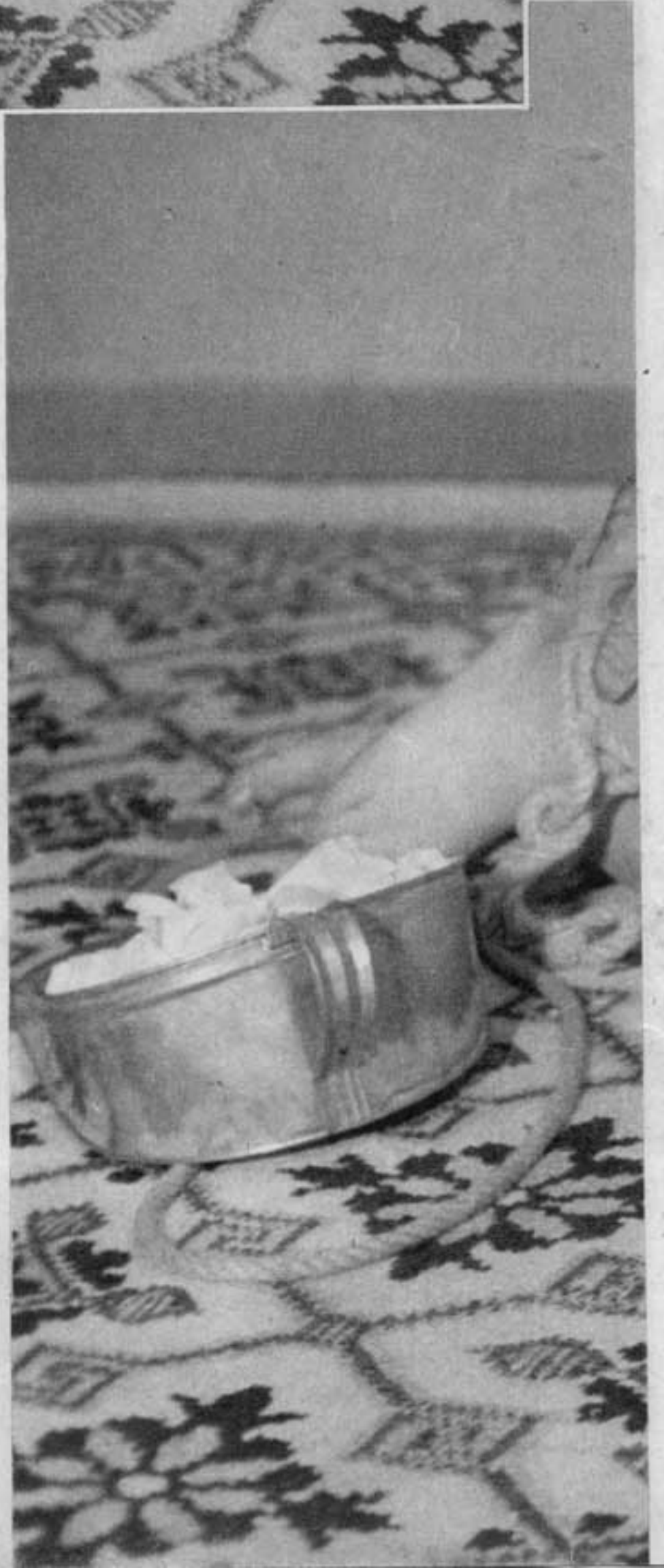




浣腸の責め苦

溶液注入の苦痛と 忍耐の極にくる陶酔と







黒い 眼帯

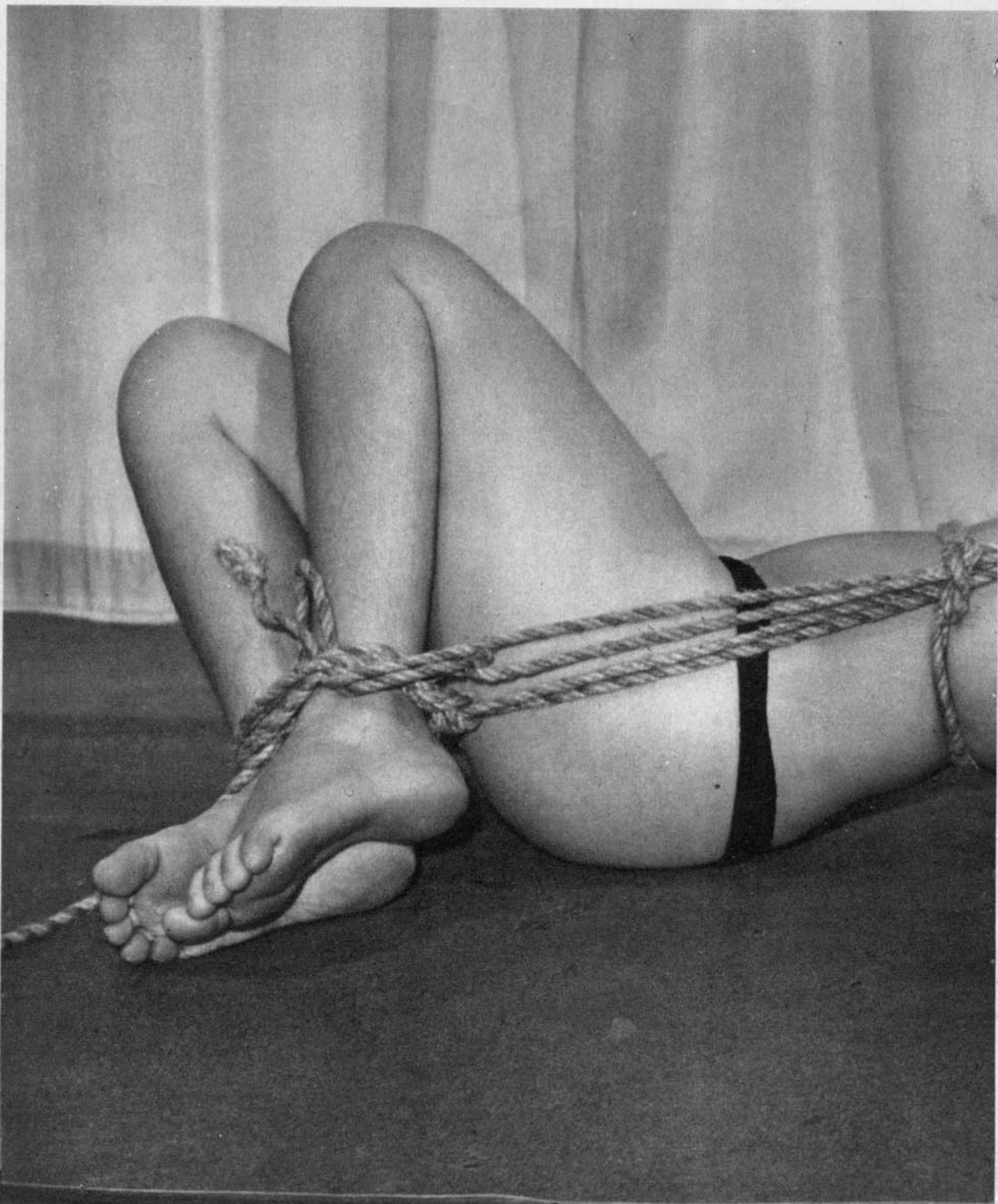
黒眼鏡は凶事の表徴 それなら黒い眼帯は？ 片目をふさがれた女
は 翼を一つむしりとられた鳥の心細さだ へモデル・さつきみちへ





長々と縛られて

首と足首を一つに縛りあげた縄が 不自由な姿勢を要求する おまけに
胸と腹をくびれるほどに締めあげられて あわれ〈モデル・村上ユキ〉





とらわれの姿態



もがいても せんない うしろ手縛りのとら
われびと もがけばもかくほど 縄はしめつ
け 衣類は乱れて 白い肌が惜しげもなくむ
き出される やがて 彼女に訪れるものは
不思議な法悦の境地へモデル・高月まゆみ



いく奇妙な感覚に身をひたす



椅子の悶姿

椅子に縛られ 女は 次第に高まって



ムチが飛ぶ

高々とあげた両手を 頭のうしろでキッチリと
縛り その手を動かさないように 首もろとも
にぐるぐる巻いた縄 足は足で アグラのまま
に拘束され その無防備の乳房から腹へかけて
非情のムチがふり下ろされる ピシリッ！ ム
チの音の下で 白い裸身が ピクピク痙攣する





ゴムひも しばり

幅広のゴムひもが 乳房を圧迫して両手をうしろに締めあげている ゴムだから じっとしていても ぐいぐい肌を締めつけて 血液の流れさえ止めかねない それに耐えているとき 苦痛が陶醉に変わるのが女だ



鼻責めの表情

ペンチ モンキー ネジまわし その
うえウインチまでもちだして 感覚の
鋭敏な鼻を責める 小さな場所でも
場所が場所だけに 痛みはするどく
身うちを貫いて走る 口はうつろに開
かれ 乳房はあえぎ やがて全身が波
うってくる 苦痛と陶醉 法悦と悶絶
そんな感覚が交錯し 官能に火がつく

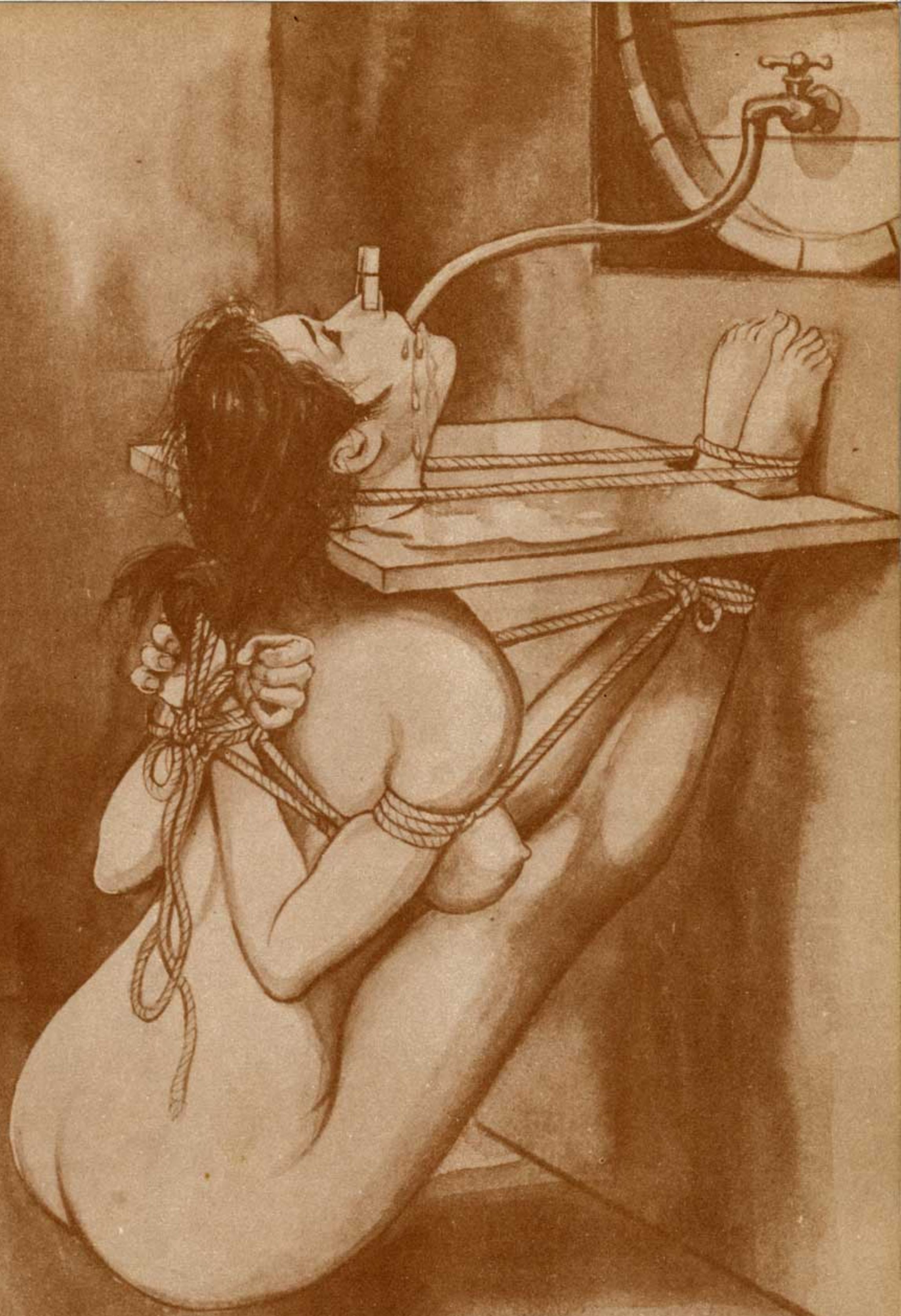




女体責め
悦虐画集



ガラスの幻想①——ガラスのするどい鋭角の上にのせられた冷たい責め〈田上恵子・え〉



水責めの苦悶図——緊縛固定の姿勢で裸女の鼻をふさいで水がドクドク〈江馬美久・え〉



スケートのエッジ——リンクの緊縛裸女の白肌を エッジが鋭く切る〈江馬美久・え〉



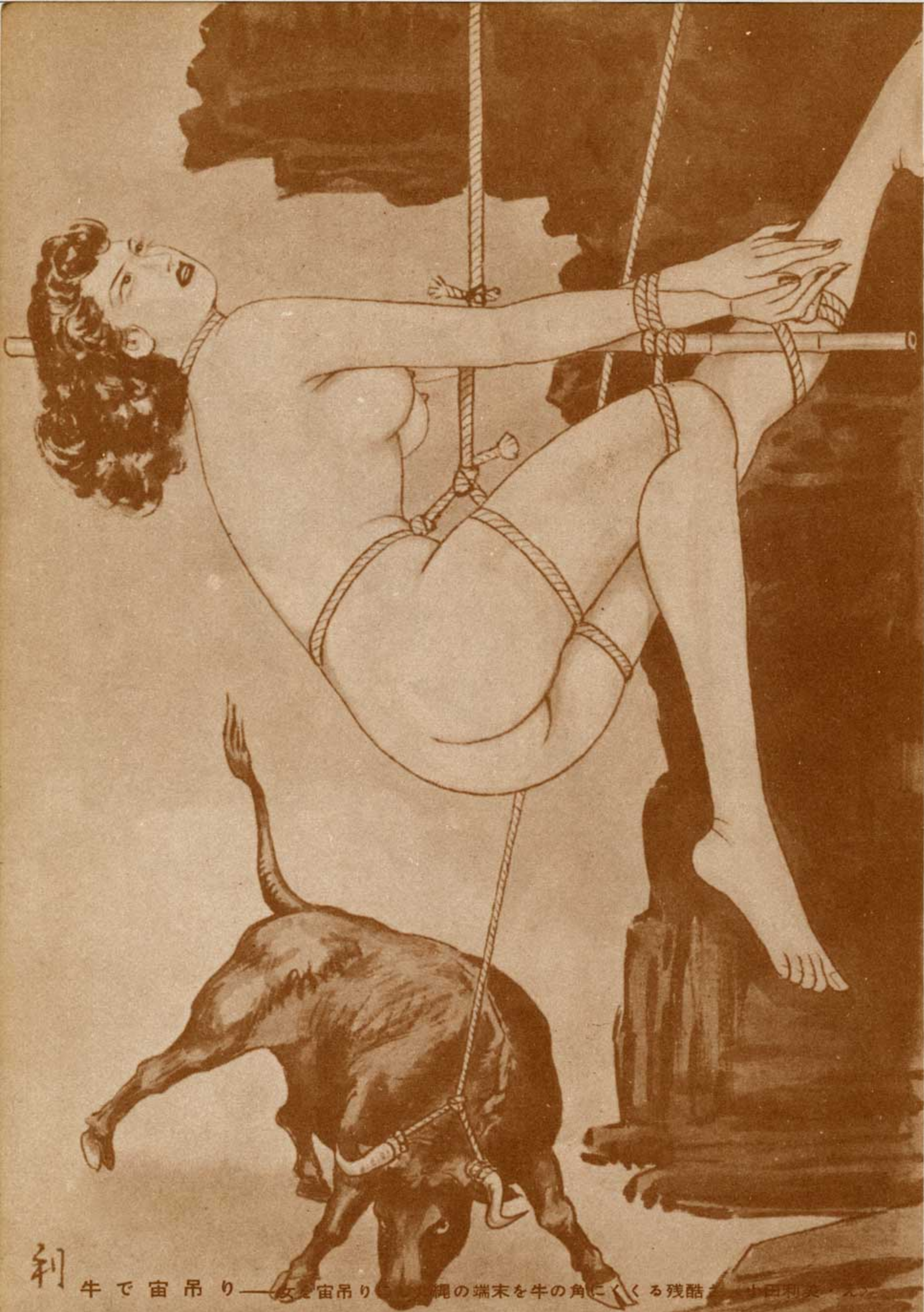
ユルシュルと 無気味な音をたてて パツパツと火が女の肌に近づく 〈田上恵子・え〉



床をはう煙硝の火——アリが砂糖のあとをたどるように 床にばらまかれた煙硝を シ



湯気の赤熱責め——柱に結えて身動きできない鼻先へ　やかんの蒸気が〈小田利美・え〉



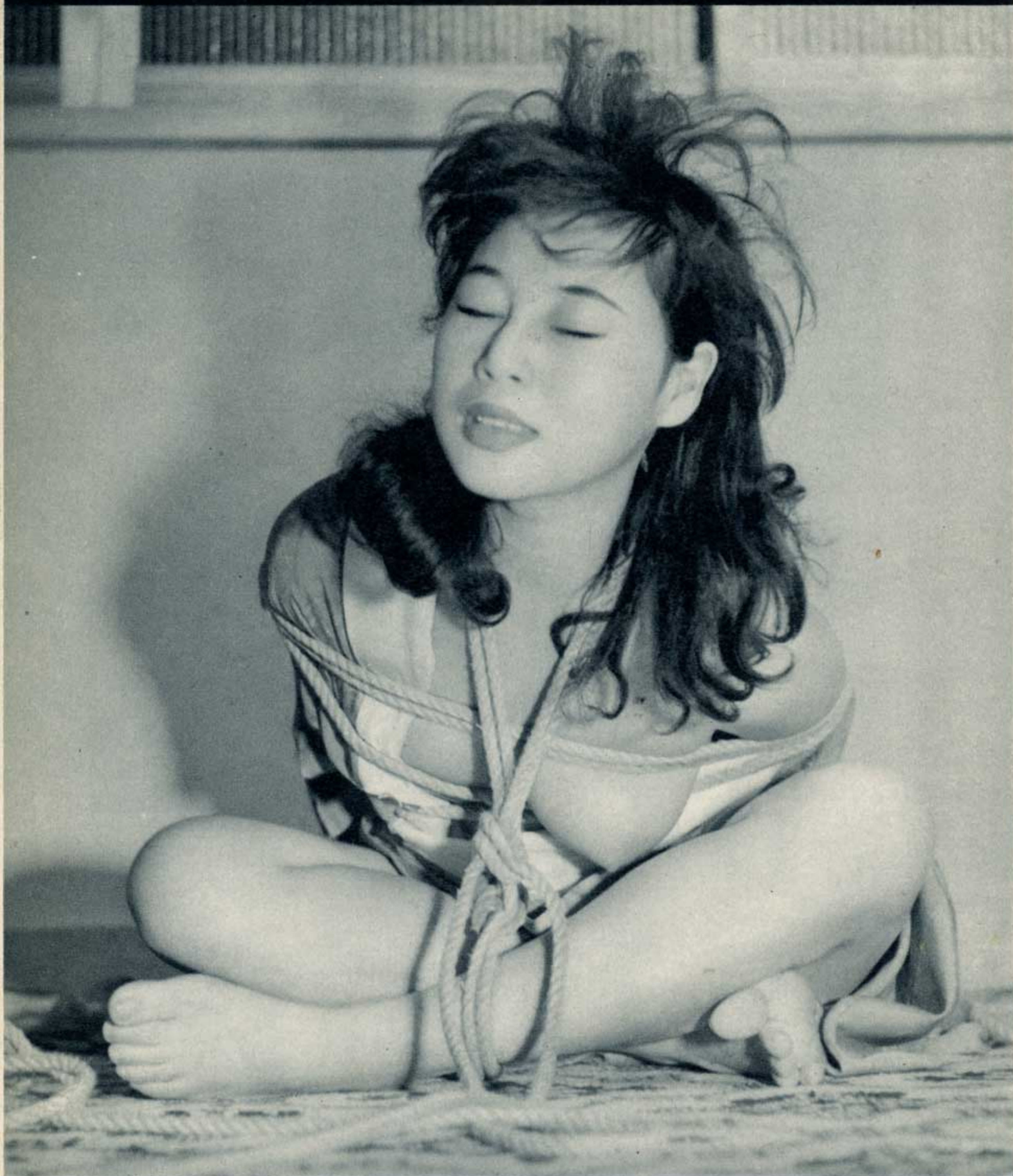
利

牛で宙吊り——女を宙吊りにし、縄の端末を牛の角にくくろ残酷な小田利英・文



ガラスの幻想②——鋭く身内を貫きとおす痛みが裸体の女を二つに裂く〈田上恵子・え〉

女 性 刑 罰 史 絵 巻



海老責め無残

着衣は乱れ 髪もバラバラ しかもからだは エビのように折り曲げられて……

かきなわ

アウンの間にパッパッとかけるのが秘法



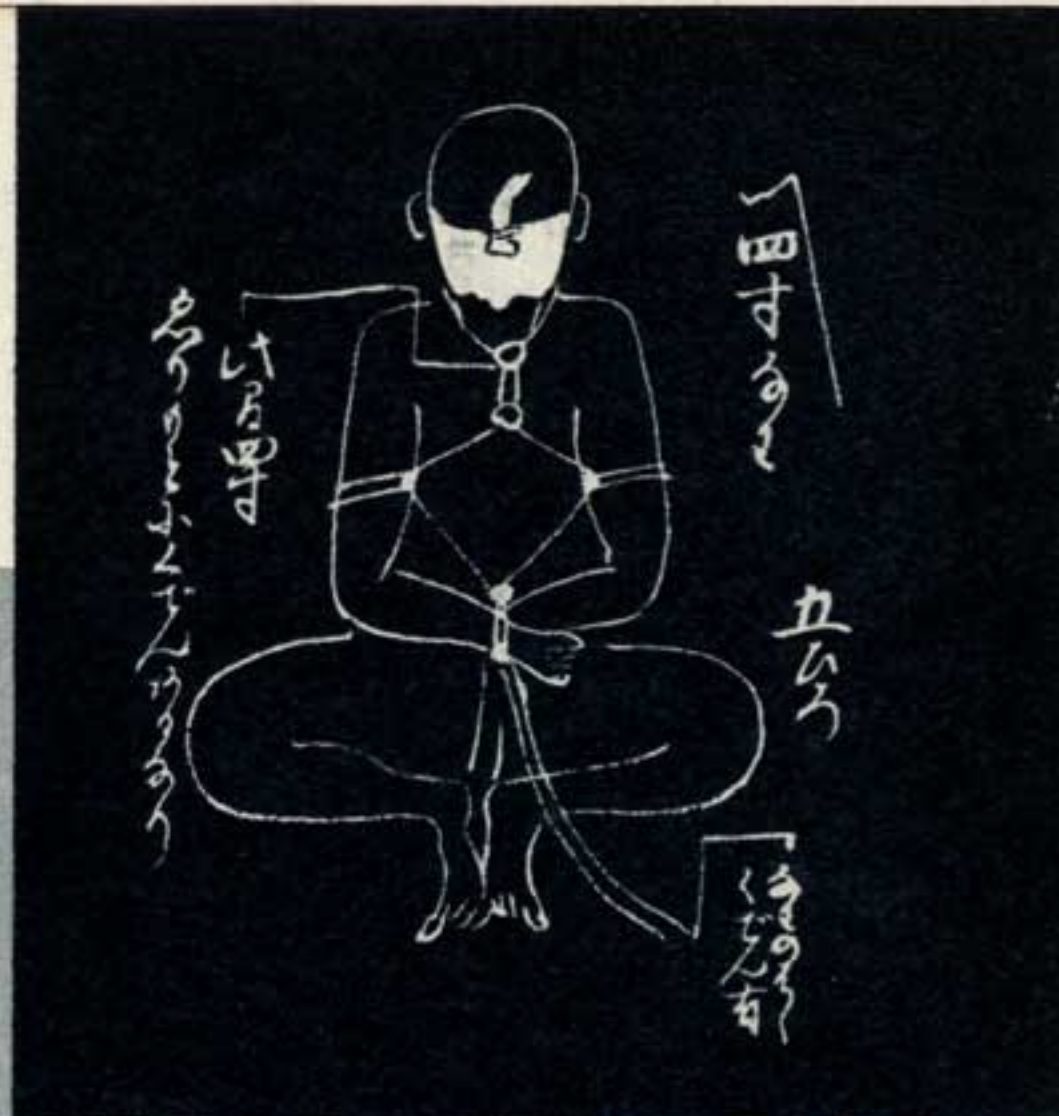
とりしめ

とらえたと思ったら もう縛られている



四寸なわ

えりもとで止める　それが身を緊縛する



れんじやく縄

背中で方形をつくって 見た目も美しい



きりなわ ①

首を巻かれて背中十字 それでピシャリと



きりなわ

きりなわ

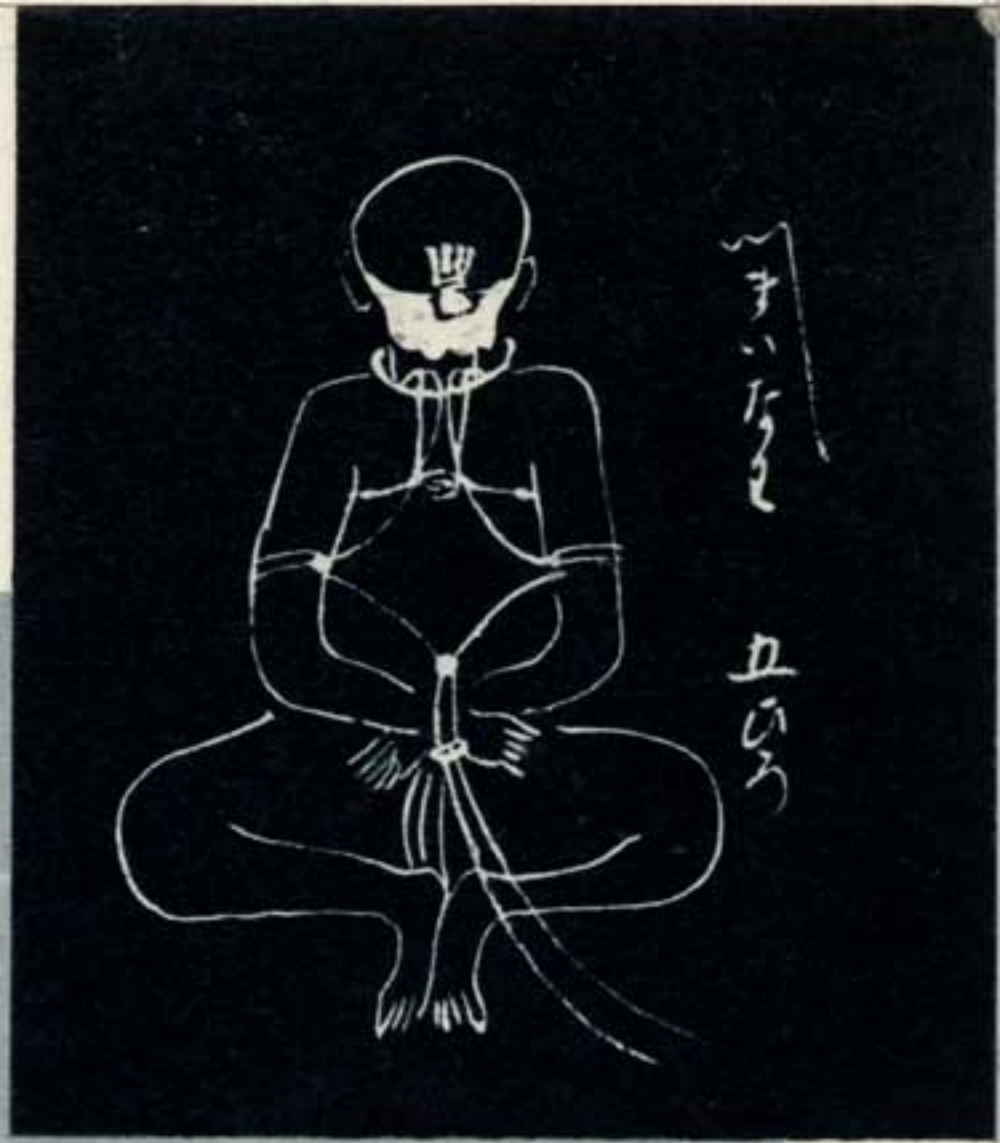
きりなわ ②

うしろ手縛りも これで完全に囚人を繋ぐ



まいなわ(背面)

首に巻いた縄に また 下から巻きついて



まいなわ(正面)

前から見ると簡単だが 結構 きいている



草のむねはり(背面)

草行真のそのひとつ 草書を形どった緊縛



そう
草のむねはり(正面)

前は斜め十字の素朴な形が 腹をむき出す



ぎょう
行のむねはり(背面)

行書を形どる緊縛のすらとした厳しさ



右はるく又一の
すいすいむねはり
角すすス一のなま
なり

行のむねはり 五

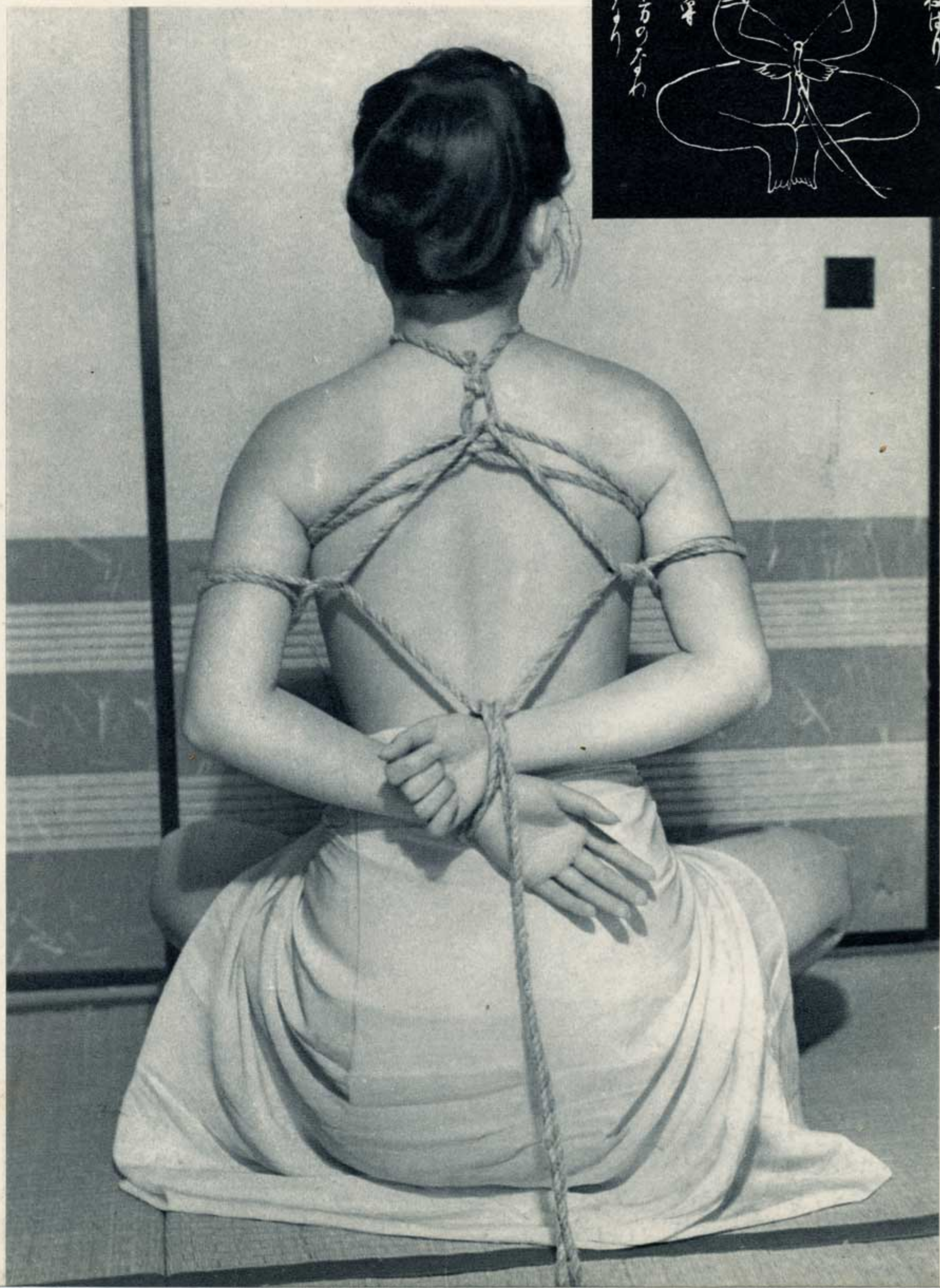
ぎょう
行のむねはり(正面)

えりもとの結び目がぐっと勢いをためる



しん
真のむねはり(背面)

真書の格調と厳しさをもった見事な縛り





しん
真のむねはり(正面)

どうしようもない厳しさのなかの拘束図



棒責め

縛られて ころがされたうえ 首を
棒でいじめられる仕置きの むごさ



異常な 性風俗 展覧会

世の中には、ふつうの観念からいえば、正常でない、といわれることが、ごろごろしている。そういった性風俗で、ヨーロッパでは昔から有名でありながら、わが国ではあまり知られていない絵画を、ここに紹介しよう。



Virile Frau umwirbt einen femininen Jüngling.

女装の男に恋する同性愛の女性（ヒルシュフェルト性科学博物館所蔵）



テオフィル・ハイネ画 (1910年)



ベルリンの女性クラブ員の園遊会（女子同性愛のシーン）

音楽が鳴りつづけ（近代音楽とその異常性を諷刺したもの）アルフレッド・クーピン画



女を責める 5態

田上恵子・え

多磨二郎・文

■ 焼きゴテ責め

皮膚の焼けるにおい、肉の焼けるにおい、そして脂肪の焼けるにおい——いまうしろ手に縛られてころがされた女の白い肌に、情け容赦なく、赤熱の焼きゴテが、ところ嫌わず押されていく。

肉の焼けるにおい、脂肪の焼けるにおい、そして皮膚の焼けるにおい——もがけども、わめけども、逃がれるすべない境地におかれた女の、生きながらの地獄のひととき。修羅の責め苦に身をさいなまれる。

脂肪の焼けるにおい、皮膚の焼け焦げるにおい、そして、ああ、肉の焼けただれるにおい！



■針金吊り責め

細い針金が、両手を指で吊り、両足を親指で吊り、両もものつけねで、全裸の女を吊る。しかも、乳房をグルッと巻いてしめあげる。

針金は細いが、鋼線だから、ピンとはるだけで、女の全体重を受けても、ビクともしない。

そればかりか、その細さゆえに、鋭い刃物とかわって、吊られる女の体重で、女の肉を、じわじわと切っていく。

針の山地獄は、いたるところ針だらけだが、この針金吊りは、小さい部分を吊ることによって、大きな体重を支えねばならない。

そこに、身を引き裂かれる苦痛が生まれ、血潮をしたたらせる。

やがて、冷たい鋼線も熱気をおび、赤光を放つかと思われる。

この苦患に耐えるには、なま身の人間では弱すぎる。だが、いけにえの女は、そんな理屈は抜きにして、ただ堪えねばならない、堪えぬかねばならない、いのち絶えるまで……。



■ レンズ照射責め

ジャングル・ジムの鉄棒に、ハダカでくくりつけられた女の、雪よりも白い背中に、レンズをとおして、いま、日光が集中照射される。ある一点に、すべての光を集めて、ただひたすらに、照射されている。

ああ、一点に凝集された責め！

これは、文明の昇華された責めだ！

血潮のなまぐさもなく、刃物の凄惨さもなく、白い肌をみにくくすることもなく……。

白い肌に、ただひとつ、ポツンと小さな赤い点が浮かび、それがやがて、やや大きくなり、しばらくして、静かに、かげろうのような炎をあげる。

この長い時間をかけて、じわじわと、からだのシンへ、細い針をとおすような苦痛を与える。

ひとつ、またひとつと、白い肌に浮く小さな赤い花模様！

それは、ポツン、ポツンと、朱筆で描く人肌模様！

長い、長い時間をかける責め！



■ 有棘鉄線責め

有棘鉄線は、戦争のときは鉄条網となり、ふだんは、どろぼうよけの垣根や塀にとりつけられる。

針金に、小さなトゲのぶちがい、同じ間隔で無数につけた、いわば幾何学的な美しさをもっている。

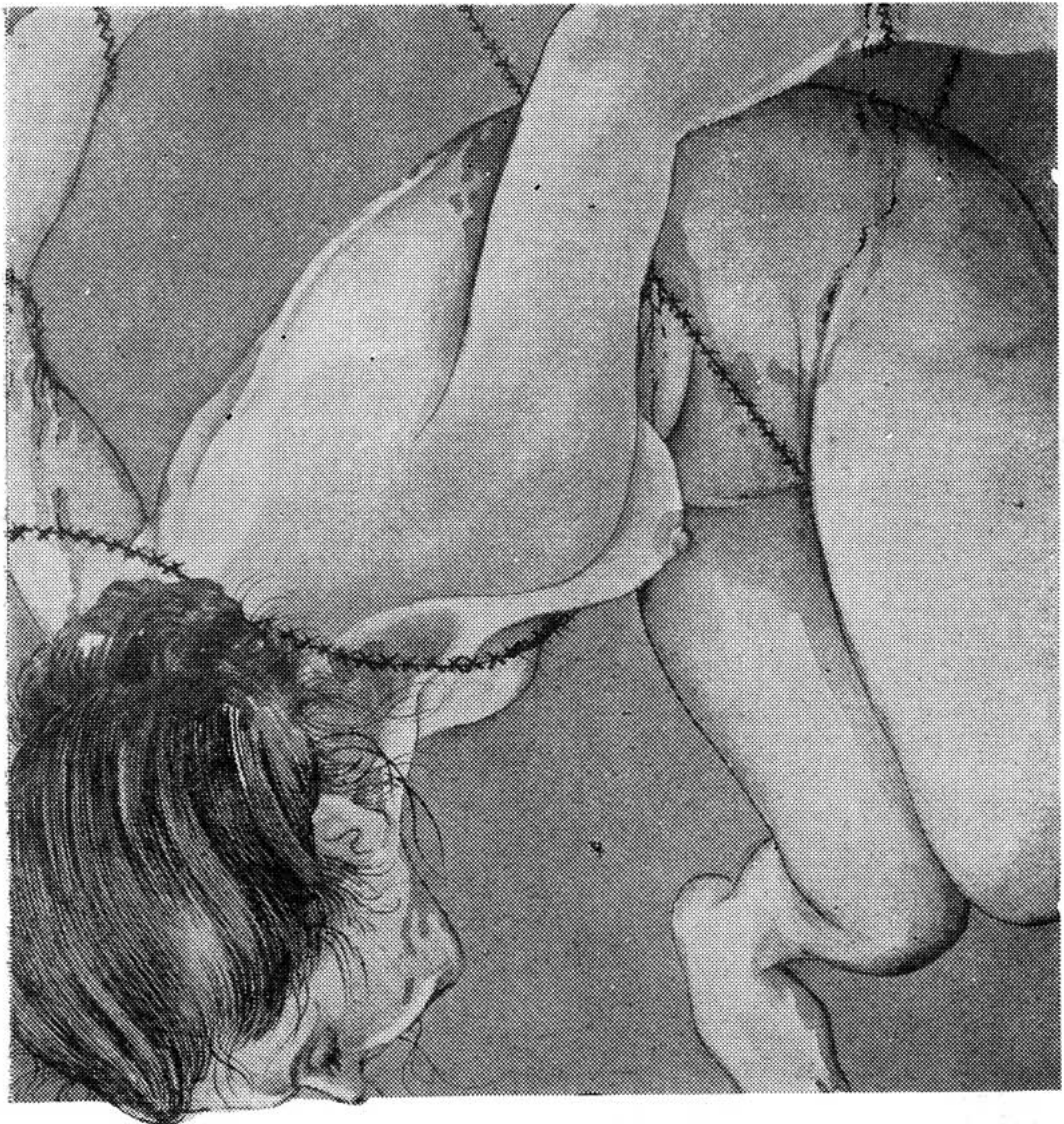
それが、女を責めるとき――

白い肌に、赤く、鋭く、独得の縞模様を押し、そのすべての個所から、鮮烈な血潮が、ふつふつと湧き、やがて、にじみ、そして、したたり落ちる。

肌の白さと、血の赤さと、鉄線の黒さと、三つの色のあざやかな対比！

視覚に訴える美しさのなから生まれる苦痛――身を引き裂き、はらわたを破り、シンのズイまでめちゃめちゃにしてしまう、ケモノのいたぶりのように、痛烈にして苦悶の淵に落としこむ、無上の責め苦！

小さく弱々しく見えながら、与える苦痛の無限に大きいもの。色あざやかで、しかも無尽蔵に嗜虐の思いを湧き出させるもの、有棘鉄線！



■ローソク責め

うしろ手にくくられた手首と、両足首にかけた縄とで、天井に吊りあげられた裸女。

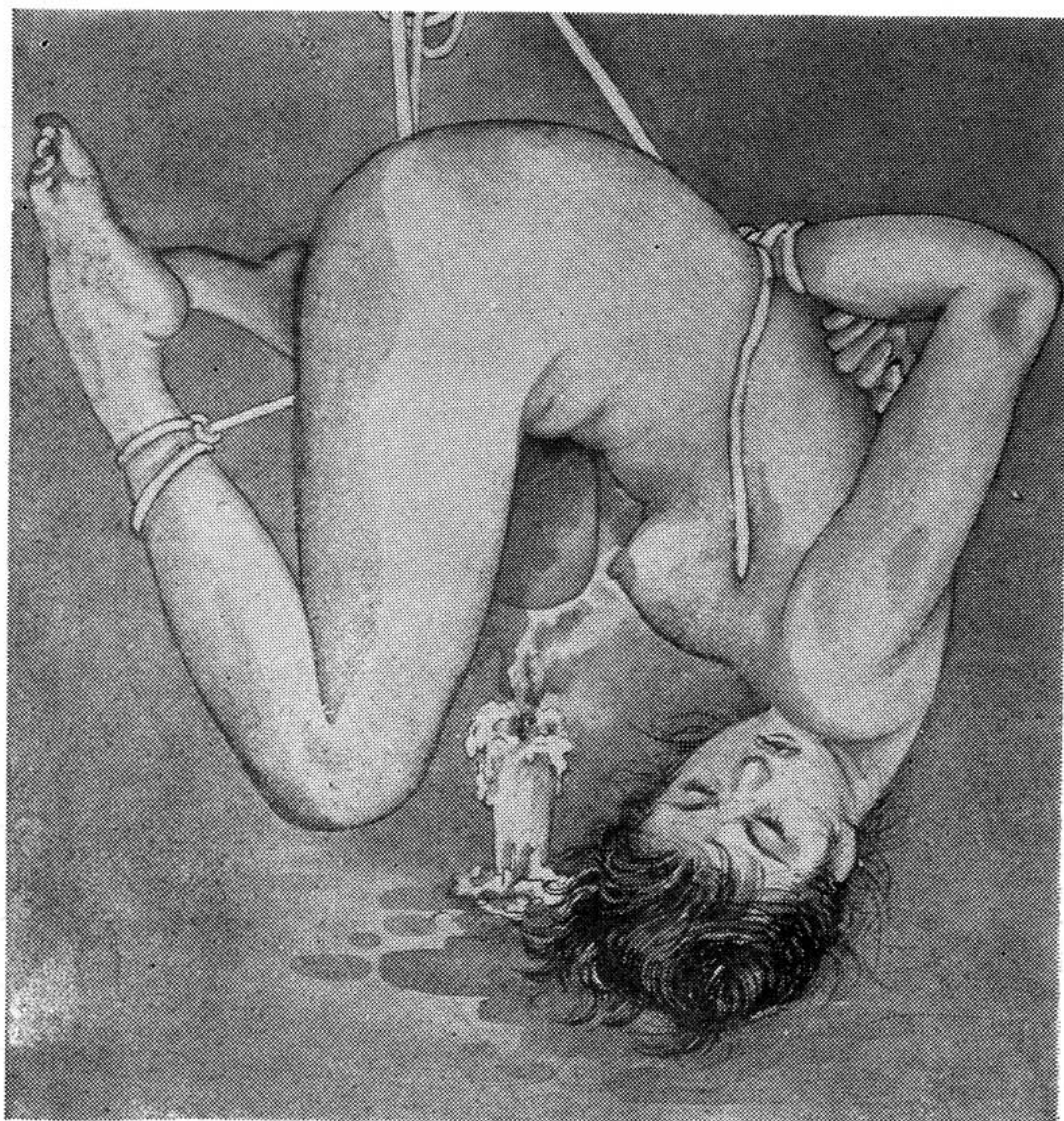
頭だけを床につけて吊られた姿勢は、それだけでも苦しいのに、かがめた腹の下に、太いローソクが立てられ、その炎が、乳房を焼き、腹を焦がす。

あるかなきかの風にゆれて、ローソクの炎は、乳首をなめたかと思うと、次には、内ももにはい、その先端が腹の皮をあぶる。

ローソクの青い炎は、妖怪の爪に似てピラピラとひらめき、赤い炎は、悪魔の舌のようにチロチロとほのめき、ああ、ここには、奇異な世界の幻想が生まれる。

この妖美な世界で、もだえ、うごめく裸女の、思いがけぬ美しさ！

悦^{ひが}虐の空気が流れ、苦痛をとおり越した彼岸に花開く陶酔のムードが、ただよい、そして、ああ、女体は不思議な輝きを増し、においでるほのぼのとした光に包まれる。



山小屋の いけにえ

田島 末吉
江馬 美久・え

「チカッ！」
暗やみから声が飛んできた。
呼ばれたのは、夜学帰りの女学生だった。
「あっ、音ッ！」
「そうよ、その音吉だ。おめえを捜して、ず

いぶん苦労した
ぜ」
「で、あたしに、
なに、何用なのよ
ッ！」





「山へ帰っても
らいてえのさ」

音吉といわれ
た男は、むず
と、チカといわ
れる女の腕をつ
かんだ。

「いやよ、いや
だってばさ」

「山の掟を破っ
たんだ、覚悟し
てるんだろう
な」

言われるとお
り、チカは、山
の生活を嫌って
東京へ逃げてき
てしまったのだ
った。

東北の、まん
中を縦断している山脈の、町からも、遠
く離れた山奥に、チカの育った部落があった。藤原
秀衡に仕えた家臣の末裔が、隠れすんで、そのまま
今に至っていると伝えられる部落だ。
それだけに、外部とのつき合いがなく、部落内で

婚姻して、現在にいたっている。だから血の
つながりは濃いのだ。

チカもまた、従来の風習どおり、幼いとき
から、部落の青年音吉と、将来、夫婦になる
と決められていた。いわば、将来を暗くとざ
されていたのだ。

チカは、そんな因習にとじこめられた部落
の習慣が耐えがたかった。だから、ある夜、
ひそかに部
落を抜け出
して東京へ
逃げた。

東京で住
み込みのお
手伝いさん
となり、夜、
高校へ通っ
ていたのだ。
だが、音
吉にとって

は、チカは、
この世でた
だひとりの
女だった。
部落の女



の数には限りがあった。だから、チカに逃げられた代わりの女を捜すことは、絶望なのだ。ほかへ行ってさらってくるか、チカを捜し出して連れ戻すか、それとも妻帯をあきらめるか、音吉にとっては、三つのうちの一つを選ぶしかなかった。

音吉は、山を下りて、必死にチカを捜しまわった。そして、ついに、チカを見つけ出したのだった。

へ2

「チカ、頼むから、おいらといっしょになってくれ！」

「いやだ。いやだよ、山の暮らしは、もうい

やだッ！」

チカは、音吉が、山へ帰ることを頼んだが、どうしても聞き入れなかった。

そんなチカを、音吉は、むりやり山に連れ戻した。そして、



部落をはなれた山かげの小屋に押し込めた。
チカは抵抗して、音吉の手から逃げだそう
と必死だった。

音吉は、そんなチカをもてあまして、おと
なしくさせるために縛りあげてしまった。
セーラー服のまま縛られたチカの、制服の
紺の下から、パツと広がるように散ったシュ
ミーズの白さが、音吉の目に、清冽な色気を
かきたてた。

ピシリッ！ そこにあった、枝つきの木を
つかむと、音吉は、やにわに、チカのか
らだに打ち下ろした。

ヒューッ！

チカの口から悲鳴があがった。

その悲鳴が、音吉の狂暴の血をゆさぶ
り、目を血走らせて、木の枝をつづけさま

にふるった。

「よーし、どうしても、ウンといわないんな
ら、おいらにも考えがある、いいか」

ひとりでうなずいた音吉は、チカを外に連
れだして、高い木の枝に、両手を頭上に合わ
せた姿勢で吊り下げた。

「おいらのいうことをきかないと、そのきれ
いな顔にキズをつけてやるからな」

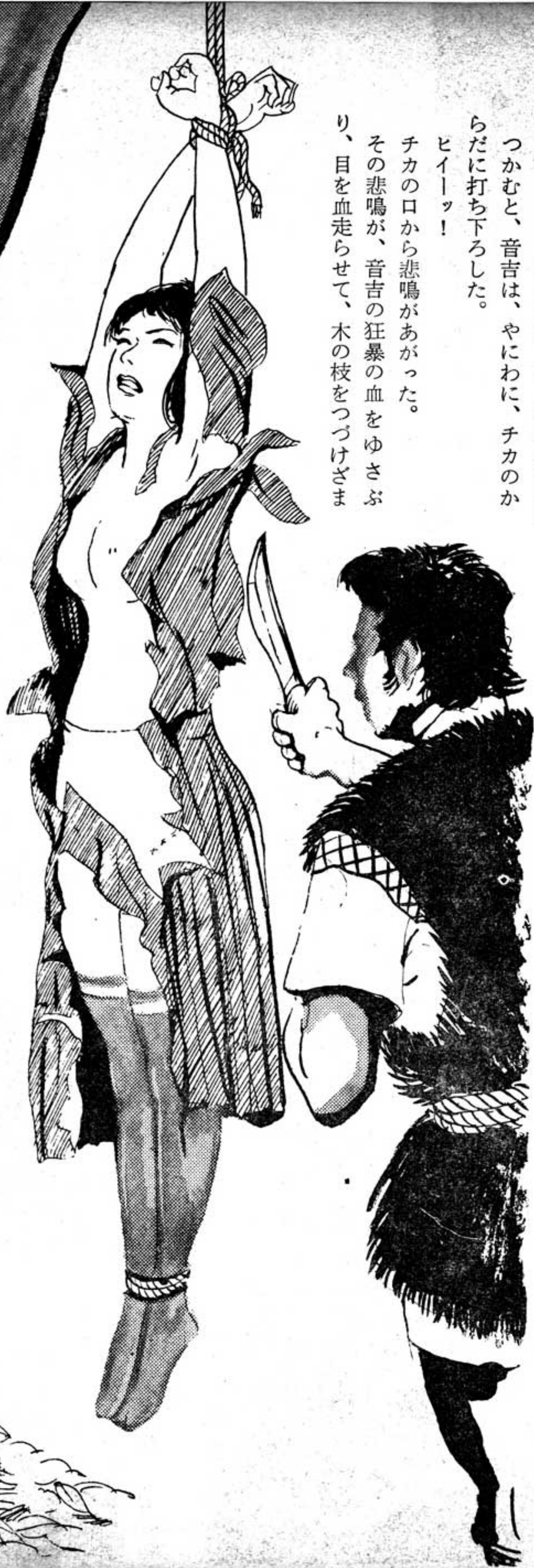
ギラリ！ 山刀をぬいた音吉は、チカに近

づいた。

一時間もたったころ、チカは、ぐったりと
ボロきれのようにぶら下がっていた。着てい
たセーラー服は、ズタズタにひきちぎられ、
シミーズまで切りさかれて、その姿は、見
るも無残であった。

へ 3 へ

音吉は、もう、自分でしていることに、す





っかり興奮しきってしまった。だから、チカに言うことをきかせるという最初の目的を、いつのまにか忘れてしまっていた。そして今は、チカを責めさいなむとともに、鬱積した血潮を奔騰させていた。木に吊られて失心寸前のチカを、また小屋にかつきこんだ。

こんどは、チカの着ていた制服をはぎとり、パンティー一枚の姿にむいてしまった。そのハダカのチカの、手足を一つに縛って天井のハリにつり下げた。カチカチ山のタヌキのように、チカは身もだえたが、しょせんむなしいあがきにすぎなかった。

そんなチカに向かって音吉は、また木の枝のムチをふるうのだった。

ピシリッ！

木の枝が、チカの肌で鳴るたびに、チカは、ウーム！とうめくのだが、もうそれも、かすかに声になるほど弱っていた。

「おい、チカッ！ これでも、おいらの言うことがきけねえっていうのか」

それに対するチカの答えは、かすかに、いやいやをするように頭を横にふるだけであつた。

それがまた音吉の血を狂気に走らせ、木の枝をむちゃくちゃにふるうのだ。

いつか戸外には、たそがれの闇がしのびより、小屋の中に、うす暗い幕がようやく濃くなってきた。

へ 4

音吉は、もう前後の見境もつかない状態になっていた。だから、いちばんむごい仕置きを、チカに加えようと思いついた。

それは、全裸のチカを、溪流に、ひと晩つけておくことだった。

さんさんに痛ぶられて、身動きもできないチカをかついで、音吉は、谷を下った。

二月の谷川の水は、氷のように冷たい。ザブーン！ 水音をたててチカはあお向けに流れに放りこまれた。そし

て、手と

足は広げた姿

勢で、岸の木に縛

りつけ、からだのあち

こちに大きな石がおもしに

乗せられた。

「とっくり考えろ」

音吉の声を、水の中で聞いたチカは、からだのシンまで凍る思いだったが、しばらくして、「チカーッ！」と自分をさがし求める声をかすかに聞きながら、目をとじた。



の『危険な』ショー

中 沢 道 太 郎

私も、いろいろ地方を回って、各地の温泉地で大人のショーを見て来たが、最近、A温泉でひそかに見たショーは、今までと異なった迫力のあるもので、縛りや責めをメインイベントとする、たのしいものであった。

客も、私を入れて四人という小人数。しかも山の中腹にある小粋な別荘が舞台とあって、フニイキは上々だった。

この、縛りや責めの写真は、K誌やF誌でのグラビアで見ることがあったが、実際に地下にもぐった温泉地のチンピラ連の演ずるショーは、見たことも聞いたこともなかったので、さそわれたときは、半ば好奇心も手伝って師走の山道をいそいだわけである。

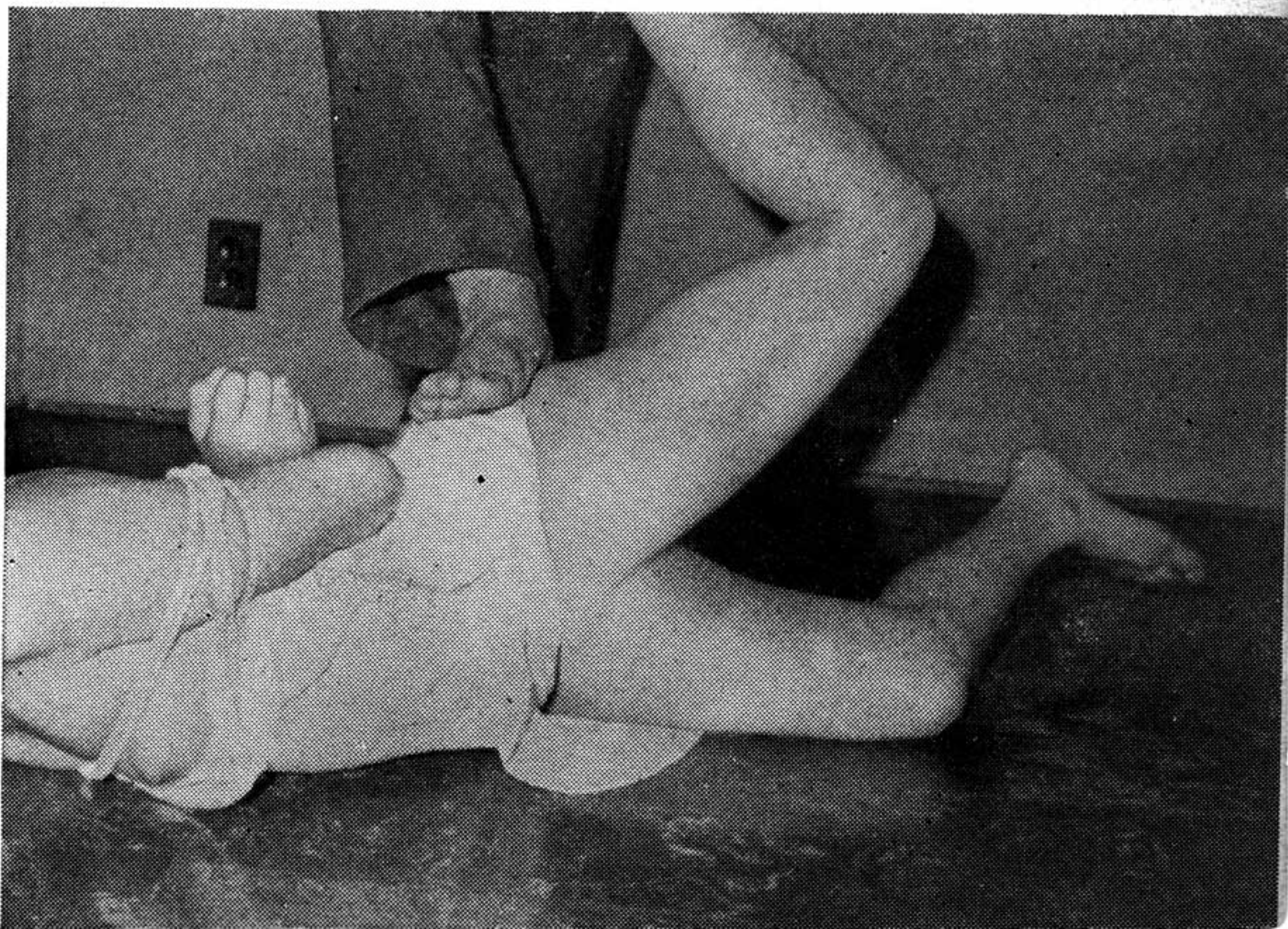
舞台になったその家が、ショーを演ずる連中とどんな関係があるのか知るよしもないが、二人の皮ジャパーを着た男は、応接間にあるホームバーに私たちを招じた。

「ダンナ方は運がいいよ。仲間じゃ、こういうショーはやらねえからな。シロシロだの、エロ映画なんか見たってつまらねえものな」

妙に腹の底にひびく声だ。

外でクラクションを鳴らす音に、男たちは部屋を出た。

まもなく、二人の男にはさまれた若い女が、



深夜

オーバーを肩に、青ざめた表情ををひきつらせてはいつて来た。今夜のショーの出演者らしい。しかし、女の表情は、浮かぬ顔というよりも、おびえているふうだった。

「かけな」

け倒されて、ソファにうずくまった。

「二度目だぜ、この間のときは大目にみてやったが、今夜はそうはいかねえ」

女は、ハンドバッグから持ち金をとり出して

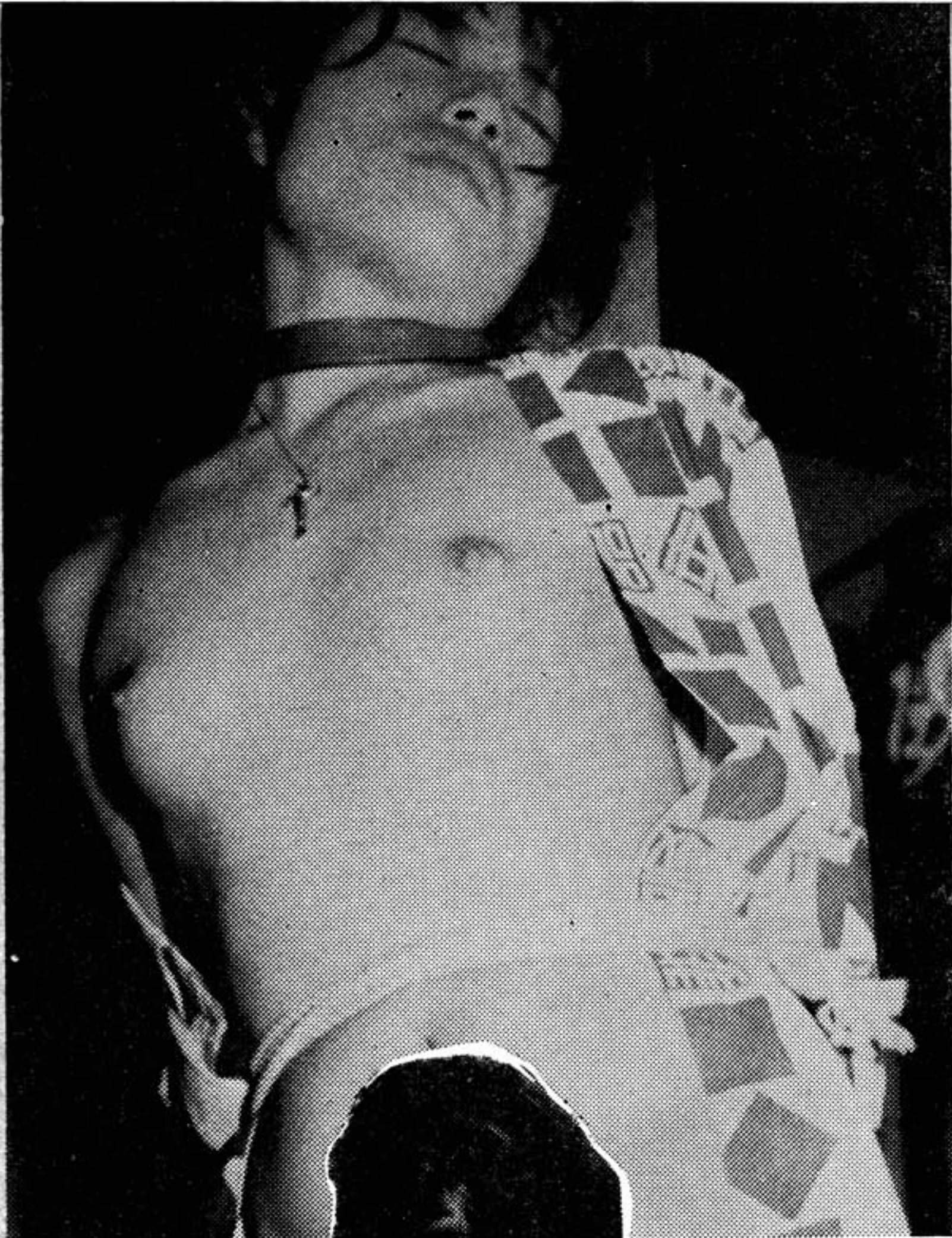
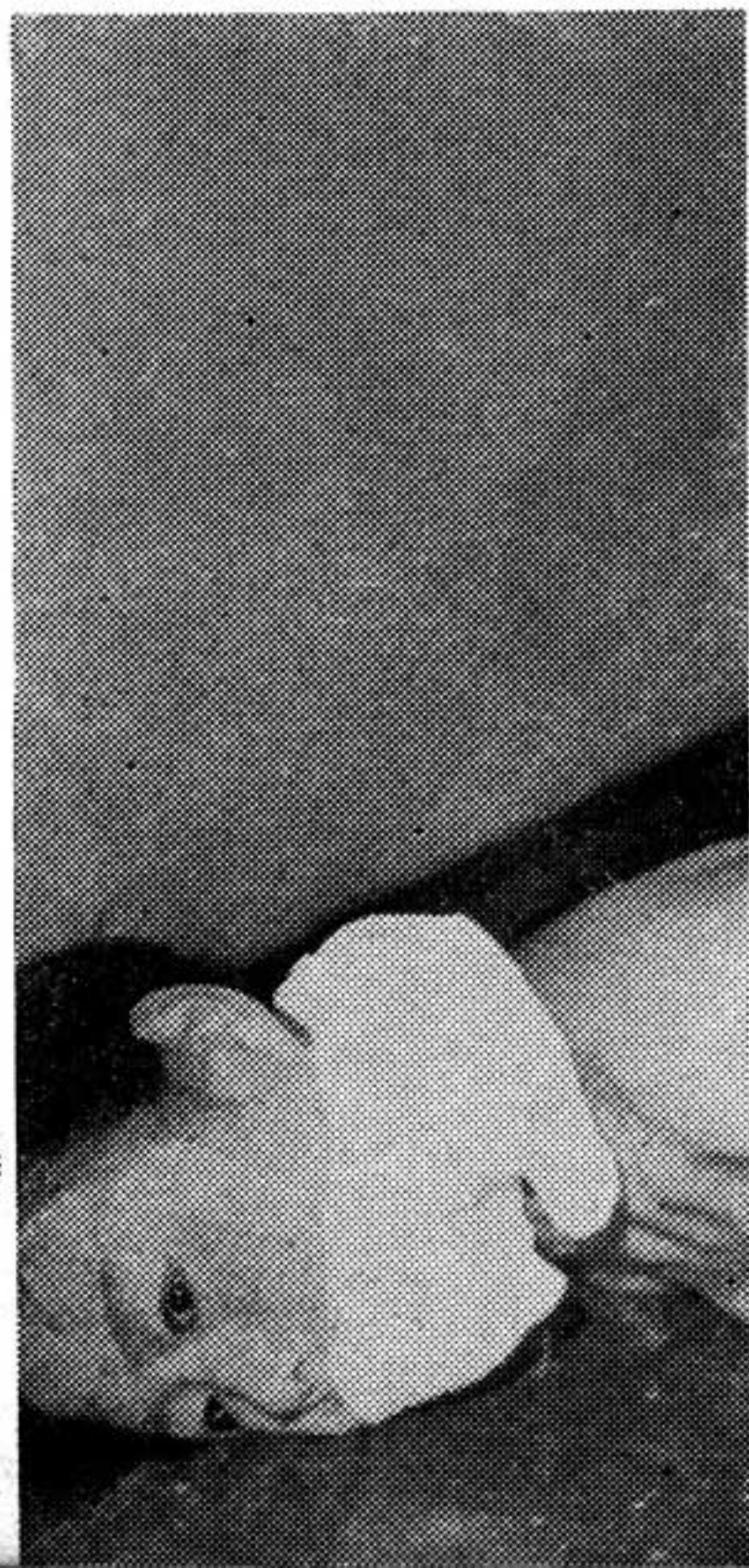
テーブルに置いた。

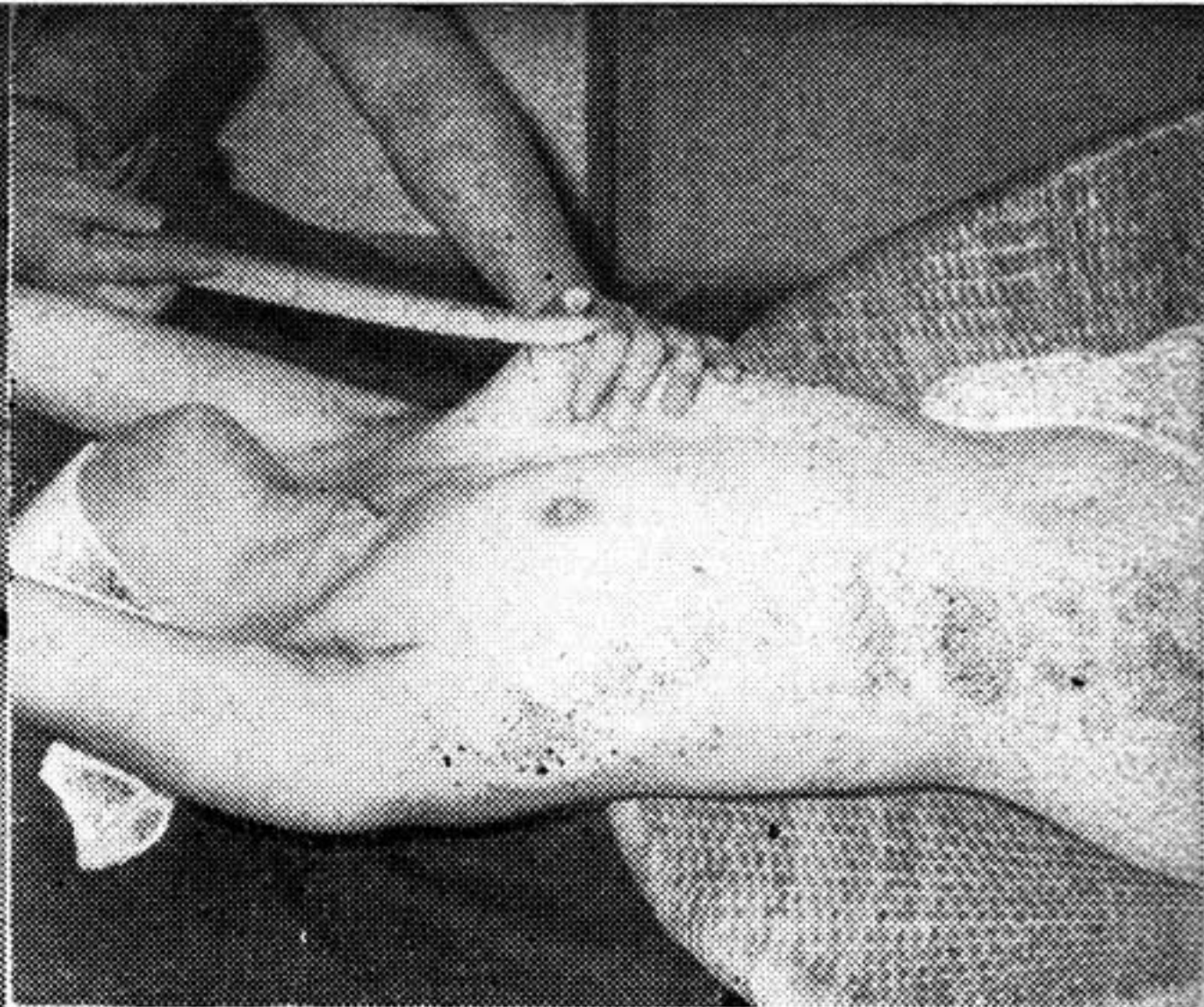
「なんだい、この金は……」

男は、千円札二枚を女の鼻の穴に押し込んだ。

「うッ」

「ふざけやがってッ」





丸めた千円札が三分の二ほどねじこまれると、女の鼻は、ダンゴ鼻のようにみにくくふくれ上がった。

「くっ、く、く、く」

首をふって苦しがる女を、こんどはソファに両手をくくりつけて縛った。

鼻血が逆流して口から流れ、たちまちスーツは鮮血にいろどられた。

どうやらホンモノらしい。そうになると、見ているほうも全く余裕がなくなって、腰が落ち着かない。

話の様子では、どうも、リンチを受けている女は、川すじに立つ娼婦のように思えた。それが、仲間の仁義とやらを裏切ったものか、とにかく、ふつうの女と違ってふてぶてしく、男たちのリンチにも

なかなか音をあげない。

しかし、全裸で、股を左右に大きくひろげられ、女の羞恥に男の目がふれたとき、はじめて悲鳴をあげ、身をよじらせた。

残忍なリンチという感じはないが、若い男たちの、スポーツに似た責めが、つぎつぎと加えられた。クツペラ、ローソクは、私の目の前で女を突き上げて絶叫させた。

女は、油汗を流し、髪はべっとりと顔から首にかけてまつわり、目をむき、歯をカチカチさせて鼻血をふき出す。

そのうちに男たちは、乳房をくすぐりは

じめた。こうなると、女の悲鳴は嗚咽と変わり、奇妙なリズムで、くくられた手足に力を入れはじめた。

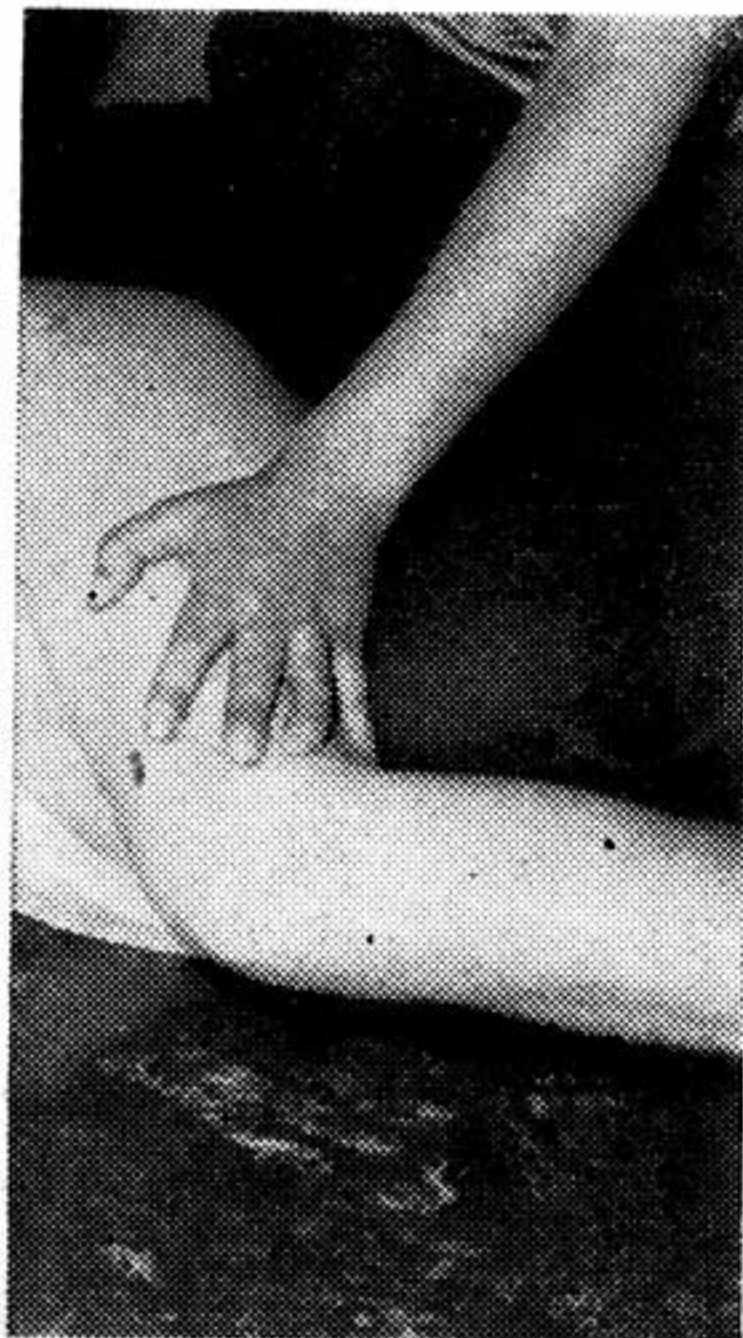
「こういうのは、めったにみられねえシロモノですぜ、なんなら、やってごらんなさい」私と、三人の客は、たじたじとなって、帰り支度をはじめた。かわりあいになることをおそれたからだ。

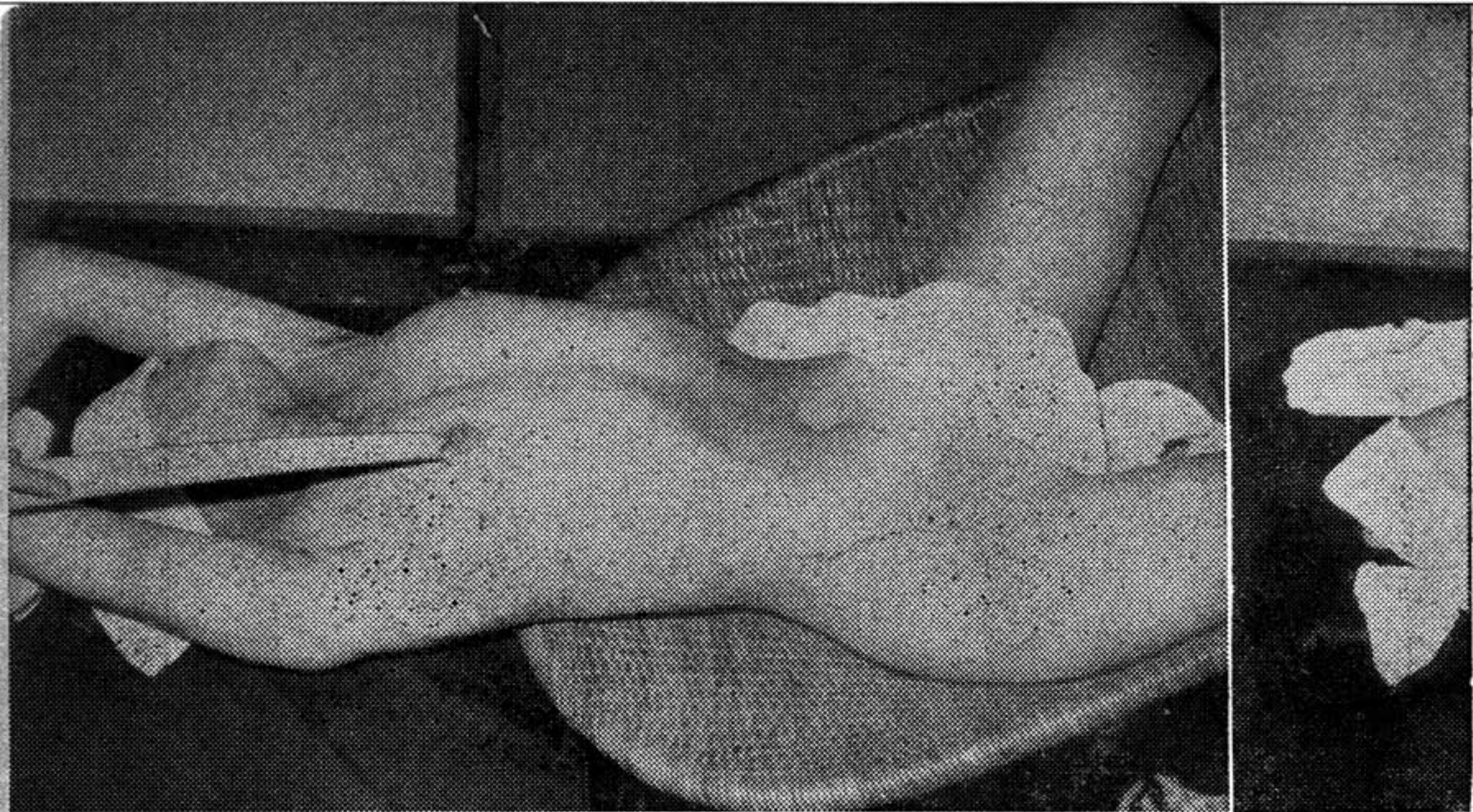
「もういいよ。時間も遅くなるから帰ろう」
「ダンナ、この女が、気を失うまでいてくださいよ。第一、金がとれねえや」

男の一人が、女の乳房をつかむと、しぼるようにひねった。

「ぶーっ、っ、っ」

鼻につめた千円札が、血にまみれてとび出した。





規則的にしめあげるたびに、女は頭を椅子の背にぶつけて絶叫する。

「踏んでみな」

ズボンをまくり、片足を女の腹に乗せた男の姿をみた女が、血だらけの顔をあげて、私たちに向かって助けを求めた。

「グーッ」

悲鳴が、こんなに息づまり、断末魔の叫びだとは思わなかった。

片足から、かけ声よろしく、両足が腹の上にのせられるにおよんで、女はついに失神した。

失神した女をどうしたかは、書くことはできないが、二人の男が、女をかえて浴室に連れて行った。

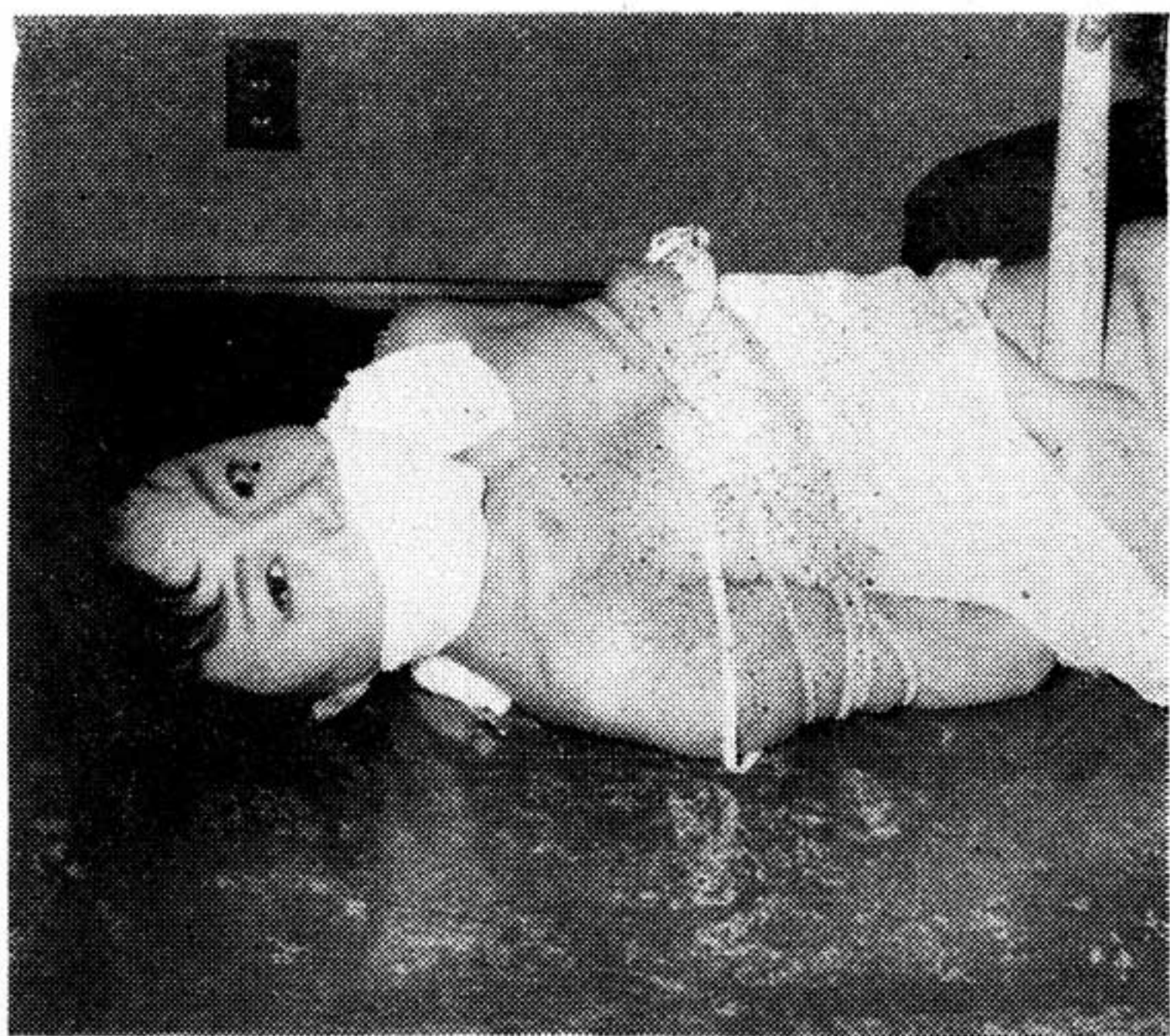
帰りがけに玄関で、私たちは、女の笑い声を聞いた。浴室のほうだった。

そのうち、全裸のまま、女が廊下を走って来た。

さっきの女だった。すっかり血は洗いおとされ、ムキ卵のようなツルツルした肌が、ほんのりと赤く上気していた。

「もっといなさいよ」

女は、露出したまま、私たち一人一人に抱きついてキッスをする。



「このあとが、とってもいいの」

ぼんやりとした客が一人、とうとうトリコになった。

暗い夜道を、町の灯を求めて歩く寒さが、身にしみて冷たかった。おそらく、考えてみると、ショーだったのだろう。それにしても、キケンきわまりないものだった。

皮ハギ小屋

三村次郎

小田利美・え

中風のおやじ

「じゃあ、どうあってもあたしにここを出て行ってくれと言うんですかえ」

中風で寝たっきりちゅうふうの小伝馬町の油問屋、日向屋藤兵衛の枕元で開き直ったお吉。相手の藤兵衛が五体の不自由なからだを知ってのいやがらせ、どうせ長い命ではないというものの、金に糸目をつけない日向屋のことで、じ



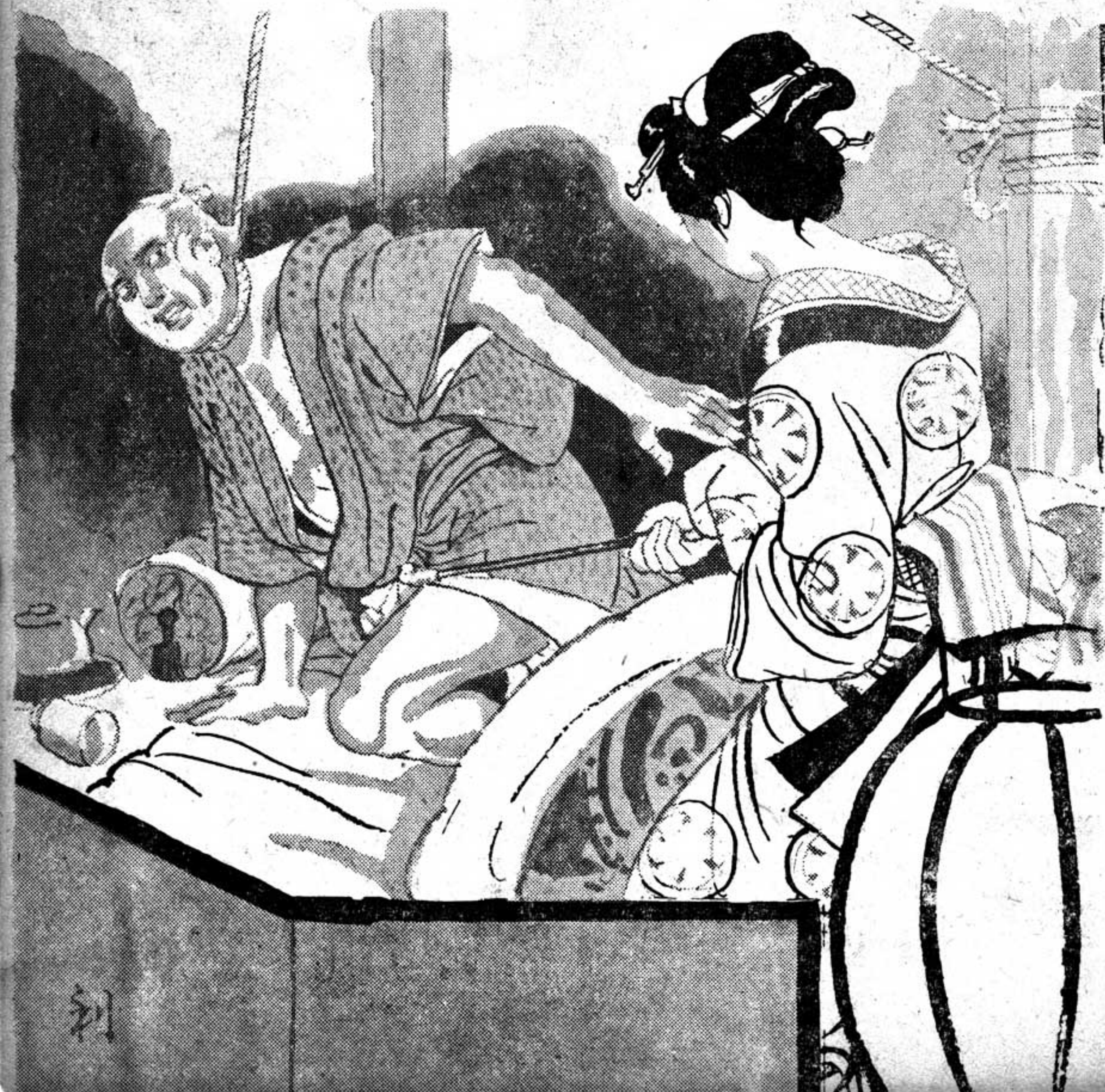
ゆうぶんな手当をつくしているので、中風といっても丸々と肥え、病氣らしくもない。逆に、口うるさく、ふれつの回らぬ舌を動かすのももどかしく、お吉に当たっている。

それというのも、本妻のりつが死んでから、根津に囲っていたお吉を、なんとなしに家に呼ぶようになり、店のものもご新造さんと言うようになったのに気をよくしてか、中風になった看護を名目に、ずるずるべったりにはいりこんでしまった。お吉にしてみれば、ひとり娘のお光が、死んだ母親似でしかり者とあって、万事目の上のコブの存在、自分が無視されているのが無気味である。お家乗っ取りとまでいかないにしても、ぜいたく三昧は約束される日向屋の身代、あとは番頭の仙吉さえ自家薬籠中のものにすれば万事うまくゆく。

その番頭の仙吉は、お光と夫婦約束の親も許す仲とあって、お吉もジリジリしていた。

藤兵衛の不自由な手つき身ぶり、日向屋を出て根津に戻れということは、元も子もなくなる宣告だった。

「いやですよ。どうせあたしのことをよく言わないお光さんの指し金でしようけど、今まで尽くして来た恩を忘れた、あまりにひどい





仕打ちですからねえ、出ませんよ、せったいに
藤兵衛は四つん這いになって、怒りをお吉
にぶつけ、虫けらのようにつばを吐く。

「で……でてゆけ……よッ」

お吉は、手をあげた藤兵衛のからだをよけ
る風にして、右足をヒ腹にとばした。

「うーっ！」

こうなれば藤兵衛を絞め殺しても――。
やにわに腰ヒモをほどき、うつぶせになっ
て苦しむ藤兵衛の首に巻きつけ、背骨のあた
りに片足をあてて力を入れた。

「うーっ、つ……き、ちイッ」

バタつかせる両足がゆっくりと輪を描き、
青っぱなが流れて、口中にねばって、息がつ
まった。

「まあまあお吉さん、おやめになって……」
いんぎんな物腰で座敷にはいつて来た男、
手代の捨吉。あばた面の醜い顔が、エビス顔
にやに下がっている。お吉も、以前からうす
気味悪い男だと思っていたが、このさい自分
の味方になってくれさえすれば……、

「聞いてたのかえ」

首に巻いた腰ヒモをそのままに、のたうつ
藤兵衛のかたわらに立てひざをついた。

「へえ。こうなりゃあ、お吉さん、旦那をこ



こで殺しちゃあまずい。それに、番頭さんやお光さんのこともありますからねえ」
(嫌なやつー そういうお前の目は、みだらでやきついている。欲しいのはあたしのからだだろう。話によってはやってもいい——)

非人部落

その夜、お吉は、あばた面の捨吉の顔を、いやっというほど見せつけられた。

両国橋下の非人部落は、見なれぬ二丁のカゴで異様なふんいきをかもし出していた。カゴのわきには、捨吉がよりそい、そのうしろ

にお吉がひかえていた。

カゴは、部落の長・鉄造の小屋の前で止まった。ひっぱり出されたのは、高手小手に縛られたお光とオイオイと泣きわめく藤兵衛だった。小屋の入り口に、まだ血のしたたるクマの皮が生干しのまま吊るされ、丸太の柱には、首が目をむき出して乗っていた。

「仙吉ッ、仙吉ッ」

土間にけ倒されたお光のすそが乱れ、白い素股がローソクの灯に風をもたらしした。

「捨吉、手前もいい顔になったぜ」



のっそりと、手に青竹をもった大男がはいって来た。
鉄造だ。

「親分、よろしくたのんます」

お吉が、あわてて小判を二包み――

「百両かい……この娘と老ぼれの皮はぎ代がよう」

「へえ、万事うまくゆきましたら、あと二百両」

「ふん、手前は日向屋の身代を、ごっそりとなあ……いい
だろう」

小屋の柱にくぐられたお光のからだをのぞき込む鉄造
が、ふっと灯を消した。月の光におびえたお光の姿がうか
んだ。

「おーっ、お許してくださいッ」

こびとの男がとびかかって、お光の帯をほどき、着物を
えり元からひき裂いた。

「ひーいっ」

裸身にむかれたお光のからだは白くおののき、羞恥に身
もだえして小屋をゆすぶった。

壺にはいった水を、こびとは口にふくんで、お光の裸身
に霧を吹く。肌がその冷たさにひきしまる。そればかりで
はない。皮はぎのコツは、その肉を堅くすることだ。

ひえーッ、ひえーッ！

こびとの青竹が、お光の尻に鳴った。乳房にあてた荒縄が
一本プツリと切れ、ふっくらとした乳首に血がにじんだ。

「ひえーッ」

藤兵衛はみかねて、土間を這いずり、鉄造にすがりつい

娘の命乞いに、まわらぬ舌を死ぬおもいにくどく。

「お助けっ」

乱れた髪が、暗い土間に凄惨なフンイキをかもす。お光の尻が裂けて血がとび散った。そして、その傷口に塩水が霧となって吹かれる。

「あーっ、っ、っ」

のけぞるお光も、さすがにその激痛に気を失った。

悪事の末路

そのとき、一丁のカゴが部落にはいって来た。

「旦那さまッ、お光さんッ」

仙吉の声だ。カゴの中には千両箱が一つ。鉄造はこびとに話しかけた。

「野郎！ 出しゃばりやがってッ」

仙吉の姿をみた捨吉が、アイクチをふるって小屋の外にとび出した。と同時に、こびが、捨吉の横腹に当たった。

「うーっ」

こびとの腕くらいある出刃が、捨吉にめり込んだ。

「捨吉よう。二百両と千両、どっちをえらぶか、お前も知ってるはずだぜ」

あてのちがった捨吉の断末魔に、鉄造が水をかけた。

「ゆっくりナメしてやるからな」

お吉は、小屋の外に身をおどらせた。しかし、ものの十歩も走らぬうちに、ぐると非人にかこまれたお吉が、この世にあらぬ悲鳴をあげてうずくまった。



読者の広場



★女陣の絵を望む

躍進を続ける「風奇」誌を、毎月愛読している者ですが、小生は、時代物の「殺し」を扱った無残絵に大いに興味を抱いています。とくに、女性に殺される殺し場に大いに興味を持っています。

現実の殺しは許されるべくもありませんが、殺しの無残美を扱った作品や、また、それを鑑賞することは許されるものと思います。とくに、過去に題材をとったものは、なおさらのことと思います。

わが国の浮世絵に、無残絵という分野があるように、泰西絵画の中にも、これが多く見受けられます。私は、その中で、アマゾン女兵を題材としたルーベンス作の「アマゾンの戦い」をとくに印象に残しています。アマゾン女兵とギリシャ兵の戦闘の状態で、美事な筆で描かれ、血みどろになって、全裸のあられもない格好で横になっている女兵、斬られて落馬せんとする女兵、川の中には美しい金髪を水に浮かべ、乳房を上にしてこ

刃の水は血潮で紅に変わっているという、印象的な構図です。

そのほかに、私の印象に残っているのは、コンスタン作「王の怒り」(世界美術全集第四巻)です。アラビアのハレムでの惨劇のあとの状態で、王(カリフ)の寵妃、寵妾たちが、王の怒りにふれ、王の刃の下に倒れ伏している姿が描かれています。全裸で大の字なりのあられもない姿で斬り倒されている女、流れた血潮が一筋、白い大理石の上に流れ、片方には数人の裸女が折り重なって倒れ伏し、血潮が飛びださく流れて泉水の中へ流れ込んでいくという状景は、私の趣好に完全にマッチしています。

しかし、私はこれらの絵を日本風に書き直すことができたらずばらしいことと思います。すなわち女たちの髪を黒髪にし、髪を結び、そして裸体に緋ぢりめんのふんどしをしめさせるということです。私は、日本髪の女性が、ふんどし、とくに緋ぢりめんのものをきりりしやんとしめた姿にあこがれているからです。

このようなアブノーマルな趣好を満たしてくださるようなのは、御誌のほかにありません。ぜひ、私の、このやるせない気持ち、私を汲んでいただいてこのような無残絵を、御誌の手によって、ぜひ実現させていただかれんことを願ってやみません。ふんどし一つの、裸の女同士で演ずる剣戟の図ならば、さらに結構です。

★皮フェチズムの夢

一月号の二人プレイ、皮フェチズムの写真、興味ふかく見せてもらった。ことに、乗馬ズボンとブーツをはいた女性は、この種の趣味の人に特有の、アブノーマルな肢体を備えて、妖しい魅力がある。顔は、あまりいただけないので、そむけた形のほうがよい。黒い上着は、トックリ・セーターであろうが、これを乗馬ズボンの下へ押しこみ、ズボンを、ベルトの部分からそっくり見せているのは心憎い演出ぶりだ。

類似誌にも、乗馬服のものはあるが、編集者にその趣味がないのか、さし絵も写真も低調でマニアに歯がゆい思いをさせて

いる現状であれば、この種の写真に、御誌が力をいれてくれることはまったく喜ばしい。

一月号の乗馬ズボン姿の女性は、年増のようだが、乗馬ズボンに包まれたその体つきから見ても、この写真をかなり興奮しつつ撮影しているように思う。すばらしいことだ。ことに、第一ペー지의写真は、乗馬ズボンの太股のつけねからはっきりとえられて、まったくすばらしいことだ。ズボンは男物のようだが、これもよい。前割れの乗馬ズボンのほうが、妖しい魅力があるものだ。

ただ残念なことは、インクが茶色なので、黒皮ブーツの迫力が乏しいこと、また、フェチにとしては、あのぬめぬめとした魅力が、不鮮明な印刷のためにいくぶん弱められていることだ。隣のペー지의男性しぼりの写真なんか、あのようにハッキリとれたものは、かえって茶色のインクのほうが冴えると思うし、これは、ポジションを入れ替えるべきであった。今後に期待しよう。

皮フェチシズムの写真にして

もそうで、グラビアを使わなかったために迫力をかいた。

既刊号に、ときどき載せて来た乗馬服ものにしても、なんとなく「いま一いき」といった感じがする。印刷のためか。

新東宝の映画には、このようなアブノーマルなシーンが多いのだから、交渉次第では、古いスチールなんか、案外いいものがあるのではないかと思う。

たとえば、一昨年だったかの「女間諜の挑戦」に、高倉みゆきが着用した黒皮のどぎついジャンパーと乗馬ズボン、ブーツなど、また同じ高倉の「戦雲アジアの女王」「東支那海の女傑」「嵐に立つ女王」などで見せた乗馬服姿は、なにがしかのヤボったさが、かえって奇妙な味わいを出しているし、三原葉子の「女奴隷船」における半ブーツの皮ジャンパー姿もそうだ。

そのほか、東映の三十一年ごろのものに「夕日と拳銃」で見せた三条美紀の、弱々しい乗馬服姿、「女王蜂の怒り」の久保菜穂子の女親分のオーバードール、ブーツ姿、大映のやはり三十年ごろの「火の女」「火の薔

走」で登場する山本富士子のオート・スタイル、近くは、「男ならやってみろ」に新人女優が扮するカミナリ族の娘のスタイルなど別な意味でたのしめる。

『日本では、服装の歴史が昔と今とでかなり違うためか、本格的なレザー・フェチとか、ブーツ・フェチシズムとかは、これまであまり発達していなかったようだが、最近、皮製の衣類が流行のきざしを見せはじめたのと、女性の乗馬ブームが新しい性心理学の分野を開拓しはじめているように思う。

たとえば、戦前に女性が馬に乗らぬ状態で乗馬服を着用したり、かつ、その姿で街頭に歩くと全く不自然なものに見え、気がいかへんタイだと思われるたようだ』（村上信彦氏著「ズボンとスカート」より）

（東京・馬場生）

★馬化マニアの記

僕は、熱心な馬化マゾヒストの一人です。新年号のグラビアはすばらしく思いました。とくに、四つん這いの男にまたがった可愛いハイティーンらしきお嬢さんには、馬役の男性がどれ

ほど羨ましく感じられたことでしょう。

また、乗馬靴をはいたお嬢さんのものもよいと思いますが、なにぶん長靴が男性用のものらしく、あまりに太すぎるのが玉に傷です。これなどは、写す角度によって、じゅうぶんカバーできます。たとえば、正面から撮影したものはほとんど目立たないのは、そのためです。

ただ、少々不満に思うのは、今までもそうですが、マゾ・フオトは、紙質が一段と落ちることで、せめて、縛り写真と同等のグラビアにしていただけではないかと思えます。

それから、昨年十一月号の「わたしの乗馬日記」は、恐らくK誌にときどき書いておられる倉仁成人さんのものだと思いますが、そんなことはどうでもよいとして、作者の描かれたような絵は、まったく私の趣味と一致しており、その後、本誌には倉仁さんのものがぜんぜんないのは寂しい感じがします。

私も、倉仁さんと同じく、どちらかと言えば、人間馬より、実際の乗馬のほうに心ひかれま

す。やはり、人間馬はあくまで演技であり、実際の乗馬は、馬を思い切り鞭打ち、けとばして馬とたたかい、そして馬を征服するのですから（倉仁成人「ある女優の乗馬日記」より・L誌）乗馬こそは、サド・マゾの極致ともいえましよう。

もう少し気候もよくなって暖かくなつたならば、東京近辺には伊豆の大室高原や富士五湖、軽井沢と乗馬のできるところはいくらでもありますし、モデルのお嬢さんたちはみな素敵な美人揃いなのです。今年、ぜひとも女性の乗馬写真のすばらしいものを期待しています。

また、人間馬にしても、ただピキニスーツだけではなく、拍車のついたピツタリした乗馬靴をはいて、男性の背にまたがってください（倉仁さんの絵のよう）。

僕は、その他、縛られた裸の男性が、馬にまたがった女性から鞭打たれるものとか、馬丁を馬上の女性が鞭打つというような、馬上の女性の男性責め写真や絵が理想なのです。本誌では、もともと圧倒的に

サド愛好者が多いと思いますので、以上のことは無理かも知れませんが、他誌に比べれば、マゾ・フォトは多いので（グラビアページになれば満点）僕にとつては大きな慰めであり、楽しみです。

また、マゾ・フォトの分譲写真など出来ましたならば作ってください。別冊の画報なども、K誌のようにマゾ特集号が出ると思えば、どんなにか楽しいでしょう。（東京・一馬化生）

★禪男のアイディア

拝啓、画報十一月（6集）号を拝見しました。男性二人による禪姿のプレイに魅了させられましたので、今後もしどしこのようなシーンを多数掲載してください。これまでの緊縛場面を見ますと、ただ、格好をして見せるといふふうで、なんとなく物足りぬ思いでした。それで、私の希望する劇的要素を含んだ緊縛の案を三つ申し上げますから、ぜひ演出のうえ、誌上で見せてください。

一、宴席で非行の男が、生身で料理される場面。座敷の中央

の戸板の上へ井ゲタに組んだ青竹に禪一本の男が大の字に寝かされ、手足を緊縛されている。料理人二人。一人は派手な単衣に角帯、片肌ぬぎで尻はしよりの姿、男の頭のほうに腰を落として、内股に男の頭を抱き込み片手で口へ手ぬぐいを押し込み、片手で肩の辺をおさえている。

もう一人は、腰までの短い祭りばん天に角帯、男の腹の上をまたいで胸先へアイクチを突き立てんとするところ。料理人二人は、ともに乳首まできっちりとしらしの腹巻き、そして六尺をしめている。手をはっきりと見せてください。また、ねじりはち巻とか、その他の見物の客がカタズを飲んで見守る背景を入れるとなおよいと思います。

二、第一の男は、禪一本、両手と両足を背中にいっしょに縛られ仰向けに寝かされている。第二の男は、その腹の上に片足をかけ、踏みつけながらアイクチを突き立てようとするところを、第三の男が、第二の男の背後から組み付き、左手で首を絞め、右手でその横顔をひと突き

第二の男は、苦痛にのけぞる格好。第二の男は、単衣に角帯、第三の男は中間風の短い着物にほかぶりをしている。二人ともさらしの腹巻きに六尺禪、第二の男はとくに着物の前を開いて半裸の姿にしてください。

三、被虐者は禪一本に、さらしの腹巻き、腰の辺に幅のせまい角帯を前で結んでいる。両足首のところを縄でしばり、男二人が左右から力いっぱい引き合っている。股さきの形です。縄は、首、胸、腰と、がんじがらめにして、その一端を一人の男が持ち、被虐者の顔を片足で踏み付け、右手で竹か棒で被虐者の急所を叩きつけているところ。着衣は前景と同じでよいと思います。

以上の各場で、それぞれ苦悶の表情とか加虐者の怒りの感情などをいろいろの角度からとらえて表現してください。編集長のお努力と立石氏の技巧を期待して、切にお願いするしだいです。

★男性責めについて（江戸川・N生）

本誌ができて小生の生活はすこぶる楽しくなった。わずかの

誌面であるが、男性の緊縛写真や禪姿の写真がのり、男性責め小説がとり上げられているのを見ると、特殊の好みの小生たちへの編集部的心づかいが感じられる。どうか毎月、そうした編集を忘れないでいただきたい。

一月号の折り込みの口絵「血を好む大公妃」は実にすばらしい名画です。その裏の「烙印の刑」も大胆なもので、最近でのヒットです。この次には、月岡芳年の綿絵をおねがいします。別冊の「女に責められる男」もかなり凄惨なすばらしさがありますが、女性のほうは、裸体でなく、着衣のほうが効果的です。あのようなものをまたおねがいします。女性緊縛ものは、興味の少ない私たちには、あまりに多すぎる感があります。

百田生様のアイデアの小説なかなかおもしろく、一度書いてみたいと思います。あなたのは被縛者がマゾでない男であり、加虐者が女のサドである点が好きです。姐己(だっき)責めの話や、読者欄で書かれた日本の間諜の拷問の話、いずれもおもしろいものです。そのうちにあ

なたが狂喜するような小説を書いてみたいと思います。

なまめかしい姿の女が十四、五人いる部屋に男らしく引き緊った美男の捕虜が連れ込まれる。女たちの手によって衣服は剥がされ、純白な六尺フンドシ一貫にされ、がんじがらめに縛り上げられ、踏まれ、蹴られて苦悶する、果ては、フンドシまで剥がれ、よってたかって男の物に恥を加える。男は無念の歯ぎしりをして耐えるのを、女たちはローソク、キセル、針、毛抜き、羽根、針金、コヨリ、火箸などの小道具をつかい、さらにアリ、ハチなどの昆虫をつかい責める。

なかでも残酷なものは、ペニスに生魚を縛りつけて、餓えたネコをけしかける。ネコは魚にかじりつく。捕虜の苦痛は言うまでもない。

女たちは、酒をのみ、円座をつくって、この見せ物を見物する。どうしても白状しない捕虜に対して、一人の女は緋ぢりめんのしごきでペニス、ホーデンを一しょにくくり、左右から緊め上げる。男はひたいから玉の

汗を流して苦悶し、ついに大の字形に倒れてこと切れる。

こうした残酷美の小説を一度書いてみたいと思っています。

(A・B生)

★私の作品について

前略、今年も押しつまり、十二月もうわずかになりました。この一年の御誌のご発展、まことに目ざましく、伝統や歴史ある先輩誌をしのぐのもすぐだと思っています。

私が何より本誌を愛するのは、編集方針が多角的で、女性一辺でないことである。ことに、男性ものを大胆にとり上げてくださることです。私の作品も「男だけに加えられる責め」「男性に加えられる珍刑」「憲兵狩り」「立石さま縁起」の四編がとり上げられ、それぞれ好評を博したことは、小生にとって忘れられぬ一年でした。来年はさらに積極的に執筆したいと思いますが、最近、身辺多忙で、思うようにまかせません。

一月号に「赤禪斬込隊」の掲載を待っていました。編集の意に添わないものか載っていませんでした。女性が出てこない

点や、軍隊的なゴツイ内容で読まれたものと思います。禪という、フェチシズムとややソドミア的な物語で、一部の人には好まれるものと思っています。ぜひ掲載ください。

ただいま構想中のものに「桃花源」というマゾ的小説があります。これは、有名な陶淵明の「桃花源の記」を現代風にした小説です。

別冊の画集、女に責められる男なかなかおもしろいと思いました。ただいまは「奇ク」に「朱金版」という連載を書いています。これが終わったら、当分「奇ク」の原稿は止めて、御誌専門にしたいと思っています。本誌別冊、どちらでも結構ですからのせてください。

それから、口絵には、一、二枚でもなるべく男性ものをのせてください。今月の禪姿のものも、先月の別冊の二人プレイともになかなかモデルがよく、満足しています。あのモデルを使って、もっとおもしろいポーズ、木馬、海老、逆吊り、大の字縛りなどのフォトを撮影してください。

(芦立鋭吉)

夫婦和合の秘器

Wゴーリング

(新案特許出願中)

本器を使用すればアナタの
悩み即日解消!

性に悩む男性に朗報!!

- 勃起不全に対して
本器使用数分内に完全隆起し且つ
射精後も萎縮しません
- 短小の方に対して
本Wゴーリング使用数分内に局所
は驚く程膨大します
- 早漏の方に対して
本Wゴーリングを(併用)により
絶対に30分以上持続し効果絶大!

▼週刊新潮3月23日号及び夫婦生活等に紹介され、益々反響、話題を呼ぶ新製品ノ本器は(取付けたまま使用)するので効くのは当然ノ而も長年月使用しても副作用又は使用感がありませんから全く理想的です。

アナタの性能を即時10倍にする新製品Wゴーリングをスグ御使用下さい。

(定価) ▼ハガキで申込次第カタログ無代
進呈 ▼送料共一組11、三五〇円
(個人名で急送します)

名産 肥後ずゐき 手芸品

☆好評新発売!
特製品七種組一函...850円で急送!

短小の治療に!

真空ラージ療器

- 男性器發育不全、短小のた
め失望せる方は、最新式の
真空療法「ラージ療器」の
出現により、局所の肥大、伸
長を図り、大なる喜びを得
られよう
- ラージ療器並に併用局所
塗布クリーム(二百円)付
送料共
定価一組11、六五〇円

東京都杉並区神戸町 128
株式会社 療養の友社
電話(398) 4679 振替東京118443
(高田馬場より西武線井荻駅下車徒歩2分)
(荻窪より井荻駅行バス5分、柿の木町下車)

世界名作秘画誌上展覧会
リチャード・ミューラー・グロテスク画集
裸女物語・悪徳の栄え(サド) 田上恵子
多色刷写真・空の艶肌・白肌への執念
多色刷写真・空の艶肌・白肌への執念
第1色刷写真・空の艶肌・白肌への執念
第2色刷写真・空の艶肌・白肌への執念
第3色刷写真・空の艶肌・白肌への執念
貴族の集・被虐のロリー・セ・トを
ア・ブ・チ・集・被虐のロリー・セ・トを
流腸をさしぼる女たち
男をしいたげる女たち
猛獣と女

首つりの彫刻
人獣交歓の野彫刻
乗馬する女たち
小説・永遠の美と若さの泉
小馬・永遠の美と若さの泉
多色刷写真・陶酔する悦
写真・陶酔する悦
第1色刷写真・陶酔する悦
第2色刷写真・陶酔する悦
第3色刷写真・陶酔する悦
第4色刷写真・陶酔する悦
第5色刷写真・陶酔する悦
第6色刷写真・陶酔する悦
第7色刷写真・陶酔する悦
第8色刷写真・陶酔する悦
第9色刷写真・陶酔する悦
第10色刷写真・陶酔する悦

海外ナゾ・なまめかしき余情・冷たいタイ
海人残虐譚
死の砂漠行
愛欲に狂う氷原
乗馬服の女たち・マゾヒストの描いた女
ア・ブ・チ・集・被虐のロリー・セ・トを
流腸をさしぼる女たち
男をしいたげる女たち
猛獣と女

若い女の生胆をとる老婆……音羽喜代二
 獣婚・女と犬……千石仙太郎
 貞操帯のはなし……久保寺正己
 吸血鬼は実際にいた……村松芳文
 男を十字架にかけ鞭うつ女……入谷大介
 実兄と結婚した女の色ざんげ……萩村三
 妻の浮気を告げ口する鸚鵡……香村武之助
 とかく女は好みという話……村上久三
 好色な王様が一本参った話……植木祥一
 男女一代・人相ひとり判断……立石久三
 妻の貞操を試験した男の話……島崎要吉
 酒池肉林に滅んだ皇帝の話……佐田紀彦
 悪魔に肌を許した人妻の話……三浦静吉
 蛇姫ストリッパ……神山隆
 大内山淫乱五人の女官……波川久隆
 男を尻に敷き虐待した大浦玉慶……花島清次
 全身に男の紋所を入墨したお玉……由良正太郎
 会員三百人の男色クラブ……谷田義郎
 魔の十二号室……小谷明
 舌を噛み切られた男……浜村利明
 死体を溶かす……三鷹莊太郎
 女に奪われた処女……中野大八
 艶妖特集二月号……(一四〇円)
 多色刷・かぎや店先……鈴木春信
 写真版・肌の十字架……本誌特写
 口絵・梅の木責め・絶望の断崖ほか……
 特集・サディズムの種々相……
 死体処女・緊縛症・刺傷症・殺人淫楽症ほか……
 現代女性の変態心理……関森伸六
 現代版・蛇淫の怪……松井宏
 刑罰人の縄の掛け方……深沢秋人
 仮面舞踏会(四畳半襖の下張り)……小田利美
 王妃マユラの虐殺(インカ悲史)……佐東純也
 種馬にされた男の話……梅村芳文
 白い肌を焼く燭台の女……入谷大介
 犬のオリの中の裸身の美女……境利久
 妊婦に異常な情欲を燃やす男……荻須徳造
 犬によって快楽を求める女……音羽喜代二
 小宮山章吾

代理部ご案内

分譲写真が揃いました。あなたのコレクションにお加えください！

☆女囚緊縛ポーズ (略A6)



五枚一組 五〇〇円
江戸時代の刑罰資料をもとに女囚縛りを再現した哀歓嗜虐図

☆凄絶切腹六態 (略A8)



六枚一組 八〇〇円
豊満な腹部への嗜虐噴出する鮮血、女体悶悦の凄絶なる極致

☆禪姿二人プレイ (略B18)



三枚一組 三〇〇円
サド・マゾ・コンビの若く逞しき男性二人の迫真のプレイ！

☆全裸男性美決定版 (略B21)



三枚一組 三〇〇円
筋骨たくましい全裸の男、悪魔に魅入られた男の緊縛の美！

★吊り責め無残 (略A3)

三枚一組 三〇〇円
羞恥と悦虐にもたえる美女、全裸吊り責めの艶麗地獄図！

★華やかなる緊縛 (略A4)

三枚一組 三〇〇円
思わず息をのむ凄絶妖美、しかも絢爛たる緊縛女体の数々

★墓地の悦虐 (略A5)

三枚一組 三〇〇円
荒れ果てた人けな墓地に全裸の女が悦虐に身悶える陶酔

★野外縛り (略A7)

三枚一組 三〇〇円
森閑とした雑木林の中にくりひろげられた羞恥の緊縛女性

★全縛緊縛ポーズ (略A9)

三枚一組 三〇〇円
はじめて公開した全裸凄絶の女の妖しき悦虐姿態の決定版

★臀部責め (略A10)

三枚一組 三〇〇円
豊満な臀部への加虐のムチがとび、悶える肉に針が刺す

★水責め・湯責め (略A11)

三枚一組 三〇〇円
全裸女性をあくことなくバスルームに、古池に漬け責める

★本格鞭打プレイ (略A12)

三枚一組 三〇〇円
人間本能の嗜虐の極致！本誌のみがなし得た恐怖の迫真感

★禪男一人プレイ (略B19)

三枚一組 三〇〇円
まっ白い禪と緊縛の縄の対比、そこにえも言われぬ魅力が！

★禪姿二人プレイ (略B20)

三枚一組 三〇〇円
大名屋敷の一室でくりひろげられた現代小姓の豪華な悦虐

★禪姿一人緊縛 (略B22)

三枚一組 三〇〇円
キリリと締めた六尺禪の男性を緊縛する珠玉の垂涎フォト

★豊満なる緊縛女体 (略C6)

三枚一組 三〇〇円
超グラママーのはちきれんばかりの肉体に食い込む縄の陶酔

★全裸変形地獄図 (略D7)

三枚一組 三〇〇円
うごめく女体を密室で責め抜くサド・マニアの無残絵巻！

★悦虐の表情 (略X9)

三枚一組 三〇〇円
悦虐の極致をそのまま表情にとらえた無上の陶酔の美しさ

★眼帯の女 (略C8)

三枚一組 三〇〇円
不完全の美、片目をふさがれた女の魅惑、眼帯のもつ妖美

★皮ひも十文字 (略D6)

三枚一組 三〇〇円
裸女の首から乳房にかけてくいいる皮ヒモとビジョウ責め

★浣腸悦虐フォト (略D10)

三枚一組 三〇〇円
もだえにもたえる浣腸の嗜虐はマニア垂涎待望の決定版！

★密室の呪縛 (略D6)

三枚一組 三〇〇円
呪われた女の宿命、のたうつ裸女にせまる悪魔の鋭い牙！

★裸女棒しばり (略C11)

三枚一組 三〇〇円
荒れけずりの棒が縄の痛さを増し、白肌に鮮血がにじむ！

★さるぐつわ艶姿 (略C9)

三枚一組 三〇〇円
無残にも呼吸をせきとめられた責め苦の中の妖艶の美態！

▼代理部へのご注文は、現金書留、小為替、あるいは振替をご利用になるのが、確実で、便利です。



☆本格吊るし責め (略X10)

三枚一組 三〇〇円
妖美艶麗、まさに晴
雨翁えがく本格的吊
り責め絵をしにく



☆血みどろのリンチ (略X8)

五枚一組 五〇〇円
しられ、吊り下
れば、あけの果て
に鋭利な白刃の狂宴



☆無残二人しぼり (略D8)

三枚一組 三〇〇円
背中合わせの美女ふ
たり、縛られ投げ出
され、悶悦の極致



☆制服の乙女縛り (略C10)

三枚一組 三〇〇円
むしりとられたセー
ラー服の乙女が悶え
る緊縛の青春ポーズ



☆海老責め地獄 (略C7)

三枚一組 三〇〇円
死一步寸前のエビ責
めに絶叫する決定的
瞬間の貴重なポーズ

西牧えり子緊縛特選集



★支那服の悦虐フォト
(略N1) 3枚1組 300円
引き裂かれた支那服の緊縛

★いたぶられる姑娘
(略N2) 3枚1組 300円
サド・マニアの無残な責め

村上ユキ受縛特選フォト



★全裸うしろ手縛り
(略M1) 3枚1組 300円
ただ一度だけの全裸決定版

★お灸灼熱地獄
(略M2) 3枚1組 300円
灸をすえられ悶悦するユキ

ニューフォットのセクシードレス

今、評判の当社のおしゃれ下着類各種

(例一) ベビードール型



(例一)

生地……ナイロンオーガ
ンディー
色……赤・黒・ローズ
サイズ……大・中・小
ナイロン透き通りパンテ
ィ付き
¥1,900 (〒100)

(例二)

当社独自のデザインにな
るビキニパンティ
生地……サテン、前レー
ス付き ¥500 (〒30)

(例二) ビキニパンティ



30円同封お申込み次第、各種ドレス・下着類のカタログ及び直接焼付け写真送呈

東京都杉並区大宮前6-412 ニューフォット社洋品部

一カ月 (一冊)	一八〇円
三カ月 (三冊)	五四〇円
六カ月 (六冊)	一〇八〇円
一カ年 (十二冊)	二一六〇円

風俗奇譚 (送料本社負担)

一カ月 (一冊)	一四〇円
三カ月 (三冊)	四二〇円
六カ月 (六冊)	八四〇円
一カ年 (十二冊)	一六八〇円

★振替か現金書留でご送金下さい

アブチックな世界への招待



お仕置きはこれからだ

ルドルフ・ヘーゲマン画



旧ベルリン警察博物館所蔵（左右2枚とも）



ネクタールの奔流をのぞく子供たち

オットー・ショフ画



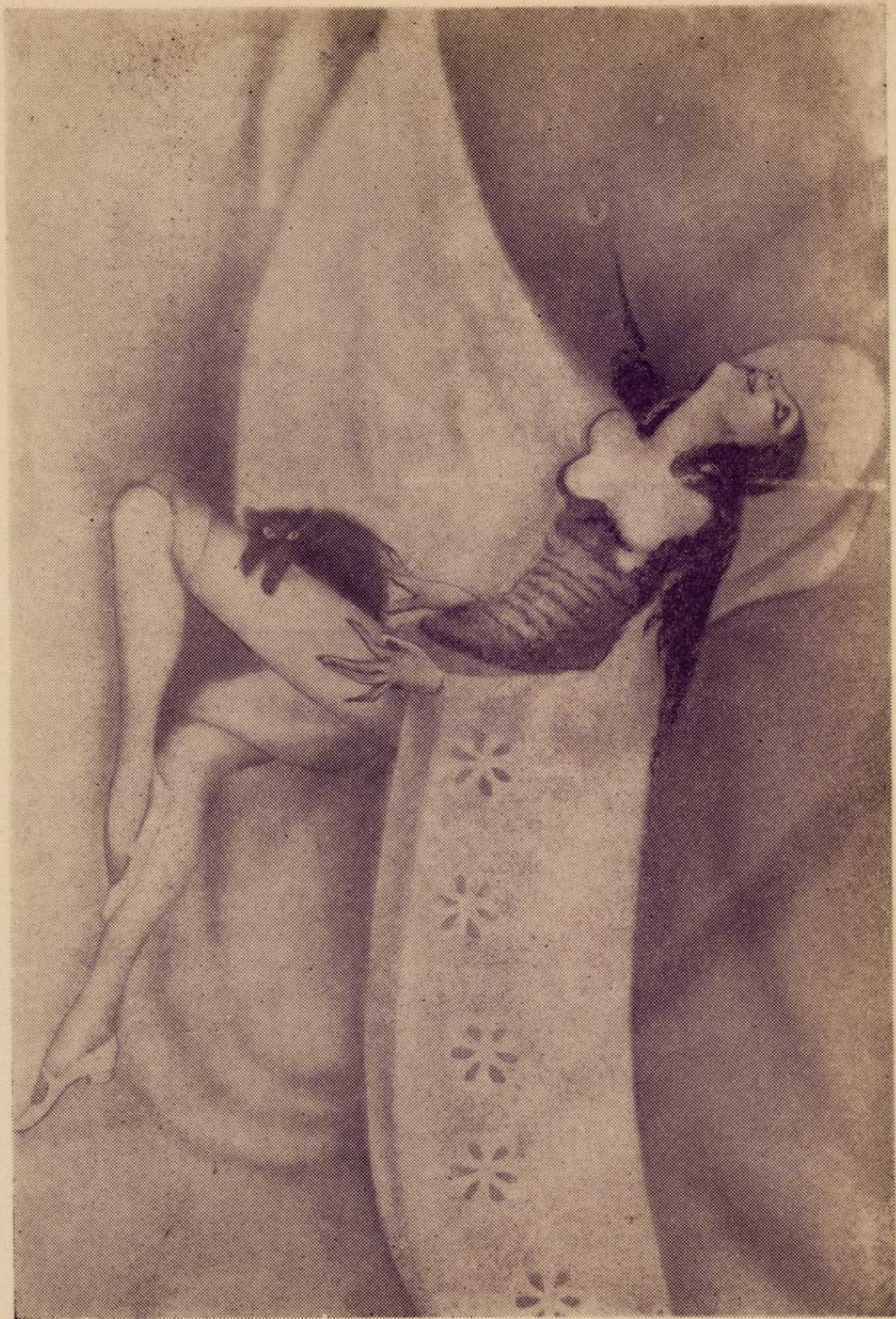
ヴォアイヨール① (カンダールとジーク)

シャルル・アイゼンの銅版画



ヴォアイヨール② (誘惑されるニンフ)

ラファエル画





人獣交歓② (レダと白鳥)

ニコレット・ダ・モデナ・マルベルティナ画



ネクロフィリア① (墓地での愛)

シャルル・P・マリリエの銅版画